

經 營 學 部

履 修 要 項

昭 和 60 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(月) } 入学式(学部・短大)
 { 积尊降誕会
- 9日(火) }
 { 新生オリエンテーション
- 12日(金) }
 { 在校生成績発表(学部・短大)
- 11日(木) }
 { 12日(金) }
 { 11日(木) } 成績質疑応答
- 16日(火) }
 { 13日(土) } 授業開始
- 15日(月) } 祝禱音楽法要の日
- 18日(木) }
 { 履修届受付(学部・短大1年次生)
- 19日(金) }
 { 22日(月) } 履修届受付(学部2.3.4年次生・短大2.3年次生)
- 27日(土) } (学部により受付日が異なる)
- 29日(月) } 天皇誕生日
- 5月1日(水) } 祝禱日
- 3日(金) } 憲法記念日
- 4日(土) } 研修日(全学休業)
- 5日(日) } こどもの日
- 14日(火) }
 { 春季健康診断(2.3.4年次生対象)
- 23日(木) }
 { 15日(水) } 祝禱音楽法要の日
- 6月1日(土) } 祝禱日
- 10日(月) } 卒業論文論題受付締切(正午)
- 15日(土) } 祝禱音楽法要の日
- 7月1日(月) } 祝禱日
- 10日(水) }
 { 中間試験(授業平常通り)
- 16日(火) }
 { 15日(月) } 盂蘭盆会
- 17日(水) }
 { 前期定期試験(前期終了科目)
- 18日(木) } (授業休講)
- 19日(金) } 夏季休暇第1日

後 期

- 9月9日(月) } 授業再開
- 12日(木) } 前期定期試験欠試届(追試申込)受付締切
- 12日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英米文)・法学部・短大国文・英文の1年次生及び経済学部の2年次生)
- 19日(木) }
 { 15日(日) } 敬老の日
- 17日(火) } 祝禱音楽法要の日
- 17日(火) }
 { 前期定期試験成績発表及び再試験申込受付
- 18日(水) }
 { 23日(月) } 秋分の日
- 25日(水) }
 { 27日(金) } 前期追・再試験(授業平常通り)

- 29日(日) } 両祖(道元・瑩山禪師)忌
- 10月1日(火) } 祝禱日
- 1日(火) }
 { 4日(金) } 秋季健康診断(1年次生対象)
- 3日(木) }
 { 4日(金) } 専攻コース指定届受付(歴史・社会学科1年次生)
- 5日(土) } 達磨忌
- 10日(木) } 体育の日
- 11日(金) }
 { 12日(土) } 前期追・再試験成績発表
- 15日(火) } 第103回開校記念日(全学休業)
- 16日(水) } 祝禱音楽法要の日
- 11月1日(金) } 祝禱日
- 3日(日) } 文化の日
- 13日(水) }
 { 15日(金) } 転部科試験願書受付
- 15日(金) } 祝禱音楽法要の日
- 21日(木) } 太祖(瑩山禪師)降誕会
- 23日(土) } 勤労感謝の日
- 29日(金) } 転部科試験
- 12月1日(日) } 祝禱日
- 4日(水) }
 { 12日(木) } 編入学試験願書受付
- 8日(日) } 成道会
- 10日(火) } 卒業論文受付締切(正午)
- 18日(水) } 冬季休暇第1日
- 19日(木) } 編入学試験
- 昭和61年
- 1月8日(水) } 授業再開
- 15日(水) } 成人の日
- 16日(木) }
 { 27日(月) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(日) } 高祖(道元禪師)降誕会
- 1月28日(火) }
 { 2月5日(水) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 1日(土) } 祝禱日
- 7日(金) } 定期試験欠試届(追試申込)受付締切
- 11日(火) } 建国記念の日
- 15日(土) } 涅槃会
- 19日(水) }
 { 20日(木) } 成績発表及び追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 26日(水) }
 { 3月4日(火) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)追試験(学部1.2.3年次生)
- 1日(土) } 祝禱日
- 19日(水) } 卒業生名簿発表
- 21日(金) } 春分の日
- 25日(火) } 卒業式(学部・短大)

目 次

| | | |
|------|----------------------|------|
| I | 単位制と学年制 | (2) |
| 1. | 単位制と学年制 | (2) |
| 2. | 授業科目の単位計算 | (2) |
| 3. | 授業科目の区分 | (2) |
| II | 卒業に必要な単位数と学士号 | (3) |
| 1. | 卒業に必要な単位数 | (3) |
| 2. | 学 士 号 | (4) |
| III | 授業科目の履修方法 | (5) |
| 1. | 一般教育科目の履修方法 | (5) |
| 2. | 外国語科目の履修方法 | (6) |
| 3. | 保健体育科目の履修方法 | (8) |
| 4. | 基礎教育科目の履修方法 | (12) |
| 5. | 専門教育科目の履修方法 | (12) |
| 6. | 随意科目の履修方法 | (14) |
| 7. | 再履修科目の履修方法 | (14) |
| | ※コード番号について | (15) |
| IV | 履修科目の登録（履修届）とその作成順序 | (17) |
| 1. | 履修科目の登録 | (17) |
| 2. | 履修届記入上の注意 | (18) |
| 3. | 履修届の作成順序 | (19) |
| V | 試験および成績評価 | (20) |
| 1. | 定期試験 | (20) |
| 2. | 中間試験 | (20) |
| 3. | 追・再試験 | (20) |
| 4. | 受験心得 | (21) |
| 5. | 成績評価・単位認定 | (21) |
| VI | 進級について | (22) |
| VII | クラス制およびクラス主任 | (23) |
| VIII | 教職課程・資格講座 | (23) |
| IX | 事務取扱いについて | (24) |
| X | 届書・願書について | (25) |
| XI | 各種証明書取扱い窓口 | (26) |
| | 試験実施規程（抜萃）・進級規程・進級基準 | (27) |
| | 講 義 内 容 | (31) |

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随 意 科 目（卒業に必要な単位に含まれない科目）
 - (a) 必 修 科 目……必ず履修しなければならない科目
 - (b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
 - (c) 選 択 科 目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数

A. 60年度入学生適用

| 授業科目の区分 | | 科目数 | 修得単位 | 計 | 合計 |
|---------|-------|-----|------|----|-------|
| 一般教育科目 | 人文分野 | 4 | 16 | 36 | 142以上 |
| | 社会分野 | 3 | 12 | | |
| | 自然分野 | 2 | 8 | | |
| 外国語科目 | 第1外国語 | 4 | 8 | 16 | |
| | 第2外国語 | 4 | 8 | | |
| 保健体育科目 | 講義 | 1 | 2 | 4 | |
| | 実技 | 2 | 2 | | |
| 基礎教育科目 | | 2 | 8 | 8 | |
| 専門教育科目 | 必修 | 3 | 12 | 78 | |
| | 選択 | 17 | 66 | | |

B. 58~59年度入学生適用

| 授業科目の区分 | | 科目数 | 修得単位 | 計 | 合計 |
|---------|-------|-----|------|----|-------|
| 一般教育科目 | 人文分野 | 4 | 16 | 36 | 142以上 |
| | 社会分野 | 3 | 12 | | |
| | 自然分野 | 2 | 8 | | |
| 外国語科目 | 第1外国語 | 4 | 8 | 16 | |
| | 第2外国語 | 4 | 8 | | |
| 保健体育科目 | 講義 | 1 | 2 | 4 | |
| | 実技 | 1 | 2 | | |
| 基礎教育科目 | | 2 | 8 | 8 | |
| 専門教育科目 | 必修 | 3 | 12 | 78 | |
| | 選択 | 17 | 66 | | |

C. 56～57年度入学生適用

| 授 業 科 目 の 区 分 | | 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計 | 合 計 |
|---------------|-----------|-------|---------|----|-------|
| 一 般 教 育 科 目 | 人 文 分 野 | 4 | 16 | 36 | 142以上 |
| | 社 会 分 野 | 3 | 12 | | |
| | 自 然 分 野 | 2 | 8 | | |
| 外 国 語 科 目 | 第 1 外 国 語 | 4 | 8 | 16 | |
| | 第 2 外 国 語 | 4 | 8 | | |
| 保 健 体 育 科 目 | 講 義 | 1 | 2 | 4 | |
| | 実 技 | 1 | 2 | | |
| 基 礎 教 育 科 目 | | 1 | 4 | 4 | |
| 専 門 教 育 科 目 | 必 修 | 3 | 12 | 82 | |
| | 選 択 | 18 | 70 | | |

D. 53～55年度入学生適用

| 授 業 科 目 の 区 分 | | 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計 | 合 計 |
|---------------|-----------|-------|---------|----|-------|
| 一 般 教 育 科 目 | 人 文 分 野 | 4 | 16 | 36 | 142以上 |
| | 社 会 分 野 | 3 | 12 | | |
| | 自 然 分 野 | 2 | 8 | | |
| 外 国 語 科 目 | 第 1 外 国 語 | 4 | 8 | 14 | |
| | 第 2 外 国 語 | 3 | 6 | | |
| 保 健 体 育 科 目 | 講 義 | 1 | 2 | 4 | |
| | 実 技 | 1 | 2 | | |
| 基 礎 教 育 科 目 | | 1 | 4 | 4 | |
| 専 門 教 育 科 目 | 必 修 | 4 | 14 | 84 | |
| | 選 択 | 18 | 70 | | |

2. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、経営学士の称号が与えられる。

Ⅲ 授業科目の履修方法

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない）
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年で履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

人文分野 4単位ずつ4科目 計16単位
 社会分野 4単位ずつ3科目 計12単位 } 合計 9科目 36単位
 自然分野 4単位ずつ2科目 計8単位 }

※2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

| 分 野 | 授 業 科 目 | 単 位 | 履修科目数 | 修得単位 | 計 | 備 考 |
|------|--------------------------|-----|---------------------------------------|------|----|-------------------------------|
| 人文分野 | 宗 教 学 I (1年次必修) | 4 | 「宗教学I」 ・「宗教学II」の2科目を含めて 4科目選択必修 | 16 | 36 | |
| | 宗 教 学 II (2年次必修) | 4 | | | | |
| | 哲 学 | 4 | | | | |
| | 論 理 学 | 4 | | | | |
| | 倫 理 学 | 4 | | | | |
| | 文 史 学 | 4 | | | | |
| 社会分野 | 法 学 憲 法 (日本国憲法2単位を含む) | 4 | 3科目選択 必修 | 12 | 36 | 教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする |
| | 社 会 学 (2年次) | 4 | | | | |
| | 地 理 学 | 4 | | | | |
| | 統 計 学 (2年次) | 4 | | | | |
| 自然分野 | 文 化 人 類 学 | 4 | 2科目選択 必修 | 8 | 36 | |
| | 自 然 科 学 概 論 | 4 | | | | |
| | 数 学 | 4 | | | | |
| | 心 理 学 (2年次) | 4 | | | | |

※「宗教学I」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。ただし、56年度以降入学生は第1外国語が英語、第2外国語は他の外国語となる。

| 履修年次 | 第1外国語 | | 第2外国語 | |
|------|-------|-----|--------|------|
| | 科目数 | 単位数 | 科目数 | 単位数 |
| 1年次 | 2科目 | 4 | 2科目 | 4 |
| 2年次 | 2科目 | 4 | 2(1)科目 | 4(2) |
| 計 | 4科目 | 8 | 4(3)科目 | 8(6) |

※()内の数字は55年度以前入学生適用

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

| 授業科目 | 単位 | 科目内容 | 履修科目数 | 備考 |
|----------|----|----------------|---|------------------|
| 英語 1G | 2 | | 1G・1R2科目を必修とする。ただし1Gは英会話または英語LLに代替できる | LL(ランゲージ・ラボラトリー) |
| 英語 1R | 2 | | | |
| 英会話 | 2 | | | |
| 英語 LL | 2 | 視聴覚教材を使用した語学教育 | | |
| ドイツ語 1G | 2 | 文法 | 5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること | |
| ドイツ語 1R | 2 | 講読 | | |
| フランス語 1G | 2 | 文法 | | |
| フランス語 1R | 2 | 講読 | | |
| 中国語 1G | 2 | 文法 | | |
| 中国語 1R | 2 | 講読 | | |
| スペイン語 1G | 2 | 文法 | | |
| スペイン語 1R | 2 | 講読 | | |
| ロシア語 1G | 2 | 文法 | | |
| ロシア語 1R | 2 | 講読 | | |

※英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は木曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の学生手帳を参照)で行う。

2年次の履修

A. 55年度以降入学生適用

1年次で履修の2カ国語を、それぞれ2科目ずつ計8単位必修とする。

第1外国語（英語を2科目4単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
|------------|-----|-----|
| 英 語 2 A I | 2 | |
| 英 語 2 A II | 2 | |

※英語科目内容

英語 2 A I：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語 2 A II：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

第2外国語（1年次で履修の英語以外の1カ国語を2科目4単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 | 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 |
|------------------|-----|---------|------------------|-----|---------|
| ド イ ツ 語 2 A I | 2 | 講 読 | ス ペ イ ン 語 2 A I | 2 | 講 読 |
| ド イ ツ 語 2 A II | 2 | 講 読 | ス ペ イ ン 語 2 A II | 2 | 講 読 |
| フ ラ ン ス 語 2 A I | 2 | 講 読 | ロ シ ア 語 2 A I | 2 | 講 読 |
| フ ラ ン ス 語 2 A II | 2 | 講 読 | ロ シ ア 語 2 A II | 2 | 講 読 |
| 中 国 語 2 A I | 2 | 講 読 | | | |
| 中 国 語 2 A II | 2 | 講 読 | | | |

B. 55年度以前入学生適用

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし、2 A I・2 A IIの2科目4単位、他方を第2外国語として2 Bを1科目2単位、計3科目6単位を必修とする。

第1外国語（指定した外国語の2 A I・2 A IIの2科目4単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 | 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 |
|------------------|-----|---------|------------------|-----|---------|
| 英 語 2 A I | 2 | 講 読 | 中 国 語 2 A I | 2 | 講 読 |
| 英 語 2 A II | 2 | 講 読 | 中 国 語 2 A II | 2 | 講 読 |
| ド イ ツ 語 2 A I | 2 | 講 読 | ス ペ イ ン 語 2 A I | 2 | 講 読 |
| ド イ ツ 語 2 A II | 2 | 講 読 | ス ペ イ ン 語 2 A II | 2 | 講 読 |
| フ ラ ン ス 語 2 A I | 2 | 講 読 | ロ シ ア 語 2 A I | 2 | 講 読 |
| フ ラ ン ス 語 2 A II | 2 | 講 読 | ロ シ ア 語 2 A II | 2 | 講 読 |

第2 外国語（指定した外国語の2 Bを1科目2単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 | 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 |
|---------------|-----|---------|---------------|-----|---------|
| 英 語 2 B | 2 | 講 読 | 中 国 語 2 B | 2 | 講 読 |
| ド イ ツ 語 2 B | 2 | 講 読 | ス ペ イ ン 語 2 B | 2 | 講 読 |
| フ ラ ン ス 語 2 B | 2 | 講 読 | ロ シ ア 語 2 B | 2 | 講 読 |

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ハ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ニ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

A. 60年度入学生適用

講義と実技に分かれる。講義は1年次に1科目2単位、実技は1年次1科目1単位〈体育実技Ⅰ〉、2年次1科目1単位〈体育実技Ⅱ〉の3科目4単位を必修とする。

| | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
|-----|---------|-----|------------|
| 講 義 | 保健体育理論 | 2 | 1年次前期または後期 |
| 実 技 | 体育実技Ⅰ | 1 | 1年次通年 |
| | 体育実技Ⅱ | 1 | 2年次前期または後期 |

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。
- ニ. 講義・体育実技Ⅰは木曜日に玉川校舎で授業を行う。
- ホ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。
 - A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業
 - B. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業
 - C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業
- ヘ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 59年度以前入学生適用

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

| | | | |
|-----|---------|-----|---------|
| | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
| 講 義 | 保健体育理論 | 2 | 前期または後期 |
| 実 技 | 体育実技 | 2 | 通 年 |

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義・実技とも木曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

1. 体育実技 I の授業について (59年度以前入学生は体育実技)

前期・後期とも、それぞれ履修時間表(下記)に含まれている数種目の中から選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間において、前期、後期種目選択のためのオリエンテーションを実施し、決定するので必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名、担任名は授業時間表による科目名、担任名を記入すること。種目選択した種目名や担当者名ではない。

体育実技 I 時間表 (1年次・玉川校舎で実施する)

| | 木・2 (営) | | 木・3 (営) | |
|----------------------------|---------|-----|---------|-----|
| | 担任名 | 原 山 | 担任名 | 原 山 |
| 種 目 担 当 者 名 | トレーニング | 田 中 | トレーニング | 田 中 |
| | 室内球技 | 村 松 | 室内球技 | 光 永 |
| | テニス | 高 橋 | テニス | 高 橋 |
| | 陸上競技 | 森 本 | ソフトボール | 原 山 |
| | ソフトボール | 原 山 | ゴルフ | 三 幣 |
| | 相 撲 | 館 岡 | 相 撲 | 館 岡 |

※体育実技 I の組分けについては「授業時間表」参照のこと。(59年度以前入学生は体育実技)

再履修クラス時間表 (2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で実施する)

| | 火・3 | |
|--------|-------|-----|
| | 担任名 | 大 石 |
| 種 目 | 室内球技 | 竹 田 |
| | 太 極 拳 | 大 石 |

| | 水・1 | | 水・2 | |
|--------|------|-----|------|-----|
| | 担任名 | 三 幣 | 担任名 | 上 山 |
| 種 目 | 室内球技 | 三 幣 | 室内球技 | 森 本 |
| | 剣 道 | 上 山 | 剣 道 | 上 山 |

(c) 単位の認定について

1年間の授業を通して、1単位（59年度以前入学生は2単位）を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業によって単位の認定が行われる。

(d) 評価について

週1回の授業を真剣に受講することが実技の重要な意味であることから、本学においては評価の上で出席を最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験等の点数、および平常の授業における態度が加味されて実技の評価が行われる。

(e) 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題について担任教員より指示を受けること。

(f) 服装, 更衣について

種目毎に、それぞれの担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

(g) 盗難・事故・負傷について

① 盗 難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので十分注意してほしい。

② 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

(h) 掲示について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見ておくこと。

2. 体育実技Ⅱの授業について（60年度入学生適用）

2年次の前期または後期に、次のA・B・Cの体育実技Ⅱの授業の中から、1つを選んで履修し単位を修得する。

A. 本校での授業

授業は、学部学科の指定はなく全学部オープンである。昭和61年度履修要項に記載する体育実技Ⅱの授業時間表の中から、どの時間、どの種目でも選択し履修することができる。ただし、履修できるのは1時間、1種目だけに限る。また各時間、および種目は定員になり次第締切る。なお、定員に達しない種目のうち極端に人数が少ない種目の場合、他の種目に移行して受講しなければならない場合もあり得る。単位は、前期または後期授業により1単位を認定する。

時間、種目の決定と履修届提出の方法と順序について

① 教務部に履修届を提出する以前に「体育実技Ⅱ種目選択届」を行う。

開講時限および種目は昭和61年度履修要項に記載する。

② 「体育実技Ⅱ種目選択届」の方法

○期 間：在校生成績発表日より5日間とする。この期間に種目選択を行わない場合は、原則として体育実技Ⅱを履修することはできない。

○場 所 } 未定 実施前に掲示板にて指示，および昭和61年度履修要項に記載する。
○時 間 }

○持参する物：種目選択届用紙（成績発表時に配布する），学生証，教務部提出用履修届用紙，昭和61年度授業時間表

○種目選択届が受理されると，教務部提出用履修届に種目選択済の確認印が押される。

③ 教務部への履修届提出

○種目選択済の確認印のない履修届は受付けない。

B. シーズン・コース

シーズン・コース授業は，原則として本校での授業の体育実技Ⅱ（前記A）の選択が困難と認められた場合に履修することができる。単位は，本校での前期または後期の授業と同様1単位を認定する。実施期間は，前期が夏季休暇中，後期が冬季休暇中とする。

○開講予定種目

前期 テニスA

テニスB

後期 スキーA

スキーB

※AとBは，実施場所または時期が異なる。

○具体的日程については，昭和61年度履修要項に記載する。

○申込み方法：「本校での授業」（前記A）と同様とする。なお履修届はあらかじめシーズン・コース用に設定された土曜日，5時限（前期または後期）で提出する。

C. 集中授業コース

集中授業コースは，シーズン・コースと同様原則として本校での授業の体育実技Ⅱ（前記A）の選択が困難と認められた場合に履修することができる。単位は，本校での前期または後期の授業と同様1単位を認定する。

実施期間は，前期が夏季休暇中，後期が冬季休暇中とする。

○開講予定種目

前期・後期とも，ソフトボール，バドミントン，卓球，太極拳，ジャズダンスなど。

○具体的日程については，昭和61年度履修要項に記載する。

○申込み方法：「本校での授業」（前記A）と同様とする。なお，履修届はあらかじめ集中授業コース用に設定された土曜日，5時限（前期または後期）で提出する。

4. 基礎教育科目の履修方法

A. 58年度以降入学生適用

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次2科目8単位を必修とする。

| 履修年次 | 授業科目 | 単位 | 備考 |
|------|-------|----|----|
| 1年次 | 経済学概説 | 4 | |
| | 経営学概説 | 4 | |

B. 57年度以前入学生適用

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次1科目4単位を必修とする。

| 履修年次 | 授業科目 | 単位 | 備考 |
|------|-------|----|----|
| 1年次 | 経済学概説 | 4 | |

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目に分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

必修科目

A. 56年度以降入学生適用 3科目12単位

B. 53～55年度入学生適用 4科目14単位

| 1年次必修 | | | 2年次必修 | | |
|--------|----|----------------|-------|----|----|
| 授業科目 | 単位 | 備考 | 授業科目 | 単位 | 備考 |
| 簿記学 | 4 | 旧：簿記 | 経営学 | 4 | |
| プロゼミ I | 2 | 55年度以前の入学生のみ必修 | 会計学 | 4 | |
| | | | | | |

選択科目

- A. 58年度以降入学生適用 (66単位以上)
- B. 56～57年度入学生適用 (70単位以上)
- C. 53～55年度入学生適用 (70単位以上)

| 1 年 次 選 択 | | | 3・4 年 次 選 択 | | | 3・4 年 次 選 択 | | |
|-------------|-----|-----|-------------|-----|-----|-------------|-----|-----|
| 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
| プロゼミ I | 2 | ※ | アメリカ経営学 | 4 | | 経営分析論 | 4 | |
| 2 年 次 選 択 | | | 経営財務論 | 4 | | 税務会計論 | 4 | |
| 経営史 | 4 | | 経営労務論 | 4 | | 会計監査論 | 4 | |
| 経営管理論 | 4 | | 経営組織論 | 4 | | 証券市場論 | 4 | |
| 企業形態論 | 4 | | 経営技術論 | 4 | | 商業史 | 4 | |
| プログラミング論 | 4 | | 経営情報論 | 4 | | 経済政策 | 4 | |
| 原価計算論 | 4 | | 経営科学 | 4 | 休講 | 財政学 | 4 | |
| 経済原論 | 4 | | 公益企業論 | 4 | | 金融論 | 4 | |
| 近代経済学 | 4 | | マーケティング論 | 4 | | 国際経済論 | 4 | |
| 日本経済史 | 4 | | 商業経営論 | 4 | | 国際金融論 | 4 | |
| 統計原論 | 4 | | 保険経営論 | 4 | | 日本経済論 | 4 | |
| 民法 I | 4 | | 銀行経営論 | 4 | | 民法 II | 4 | |
| プロゼミ II | 2 | | 貿易経営論 | 4 | | 外書講読 | 4 | |
| 3 年 次 選 択 | | | 日本経営史 | 4 | | 4 年 次 選 択 | | |
| 商法 I | 4 | | 経営統計 | 4 | | 商法 II | 4 | |
| 演習 I | 4 | | 上級簿記 | 4 | | 労働法 | 4 | |
| 3・4 年 次 選 択 | | | 財務会計論 | 4 | | 演習 II | 4 | |
| 経営学史 | 4 | 休講 | 管理会計論 | 4 | | | | |

※ 55年度以前の入学生はプロゼミ I を必修とする。

6. 随意科目の履修方法

随意科目は2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

| 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
|-------------|-----|-----|-----------------|-----|---------|
| 比 較 思 想 特 講 | 4 | | 日 本 語 F | 2 | (初級・中級) |
| ド イ ツ 語 F | 2 | | ド イ ツ 語 F L L | 2 | (初級・中級) |
| フ ラ ン ス 語 F | 2 | | フ ラ ン ス 語 F L L | 2 | (初級・中級) |
| 中 国 語 F | 2 | | 中 国 語 F L L | 2 | (初級・中級) |
| ス ペ イ ン 語 F | 2 | | ス ペ イ ン 語 F L L | 2 | (初級・中級) |
| ロ シ ア 語 F | 2 | | ロ シ ア 語 F L L | 2 | (初級・中級) |

※日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる。

7. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。

ニ. プロゼミ I（55年度以前の入学生）の再履修については次のとおり。

「プロゼミ I」を再履修するものは、授業時間表の中から任意のクラスでそれぞれ履修すること。

なお必修コード番号は授業時間表の〔注意〕欄を参照のこと。

ホ. 外国語、体育実技 I（59年度以前入学生は体育実技）、保健体育理論 および 宗教学 I を再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

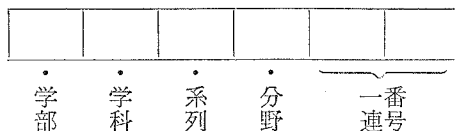
ヘ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部，学科番号は「学生番号について」での説明のとおりである。

(c) 系列，分野区分について

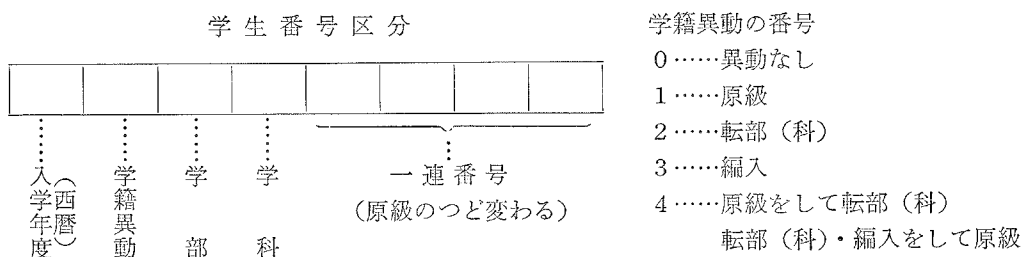
| 授業科目の区分 | 系列番号 | 分野番号 |
|---------|------|---------------|
| 一般教育科目 | 0 | |
| 人文分野 | | 1 (必修)・2 (選択) |
| 社会分野 | | 3 |
| 自然分野 | | 4 |
| 基礎教育科目 | 1 | 5 |
| 外国語科目 | 2 | |
| 第1外国語 | | |
| 第2外国語 | | |
| 保健体育科目 | 4 | |
| 実 技 | | 1 |
| 講 義 | | 2 |
| 専門教育科目 | 5 | |
| 必修科目 | | 1.2.3 |
| 選択科目 | | 5.6.7.8 |
| 随意科目 | 7 | |
| 再履修科目 | 8 | |
| 課程・講座科目 | 9 | |
| 必修科目 | | 1 |
| 選択科目 | | 2 |
| 教科科目 | | 3.4.5.6.7.8 |

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（原級・転部科など）がない限り変わらない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので、正確に覚えておくこと。

学生番号のみかた



学部・学科の番号

| 学部・学科名 | 学部番号 | 学科番号 | 学部・学科名 | 学部番号 | 学科番号 |
|-----------|------|------|---------|------|------|
| 仏 教 学 部 | 1 | | 法 学 部 | 4 | |
| 禅 学 科 | | 1 | 法 律 学 科 | | 1 |
| 仏 教 学 科 | | 2 | 政 治 学 科 | | 2 |
| 文 学 部 | 2 | | 経 営 学 部 | 5 | |
| 国 文 学 科 | | 1 | 経 営 学 科 | | 1 |
| 英 米 文 学 科 | | 2 | 短 期 大 学 | 8 | |
| 地 理 学 科 | | 3 | 国 文 科 | | 1 |
| 歴 史 学 科 | | 4 | 英 文 科 | | 2 |
| 社 会 学 科 | | 5 | 放 射 線 科 | | 3 |
| 経 済 学 部 | 3 | | | | |
| 経 済 学 科 | | 1 | | | |
| 商 学 科 | | 2 | | | |

(例)

| | |
|--|------------------------|
| 5 0 5 1 0 0 1 2 ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ 一 九 八 五 年 入 学 学 籍 異 動 な し 経 営 学 部 経 営 学 科 12 番 | (1985年度入学・経営学部経営学科12番) |
|--|------------------------|

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）

とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要な事項を記入し届出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

| 年次 | 新履修科目数 | 再履修を含む科目数 | 課程・講座登録者科目数 |
|-----|---------|-----------|-------------|
| 1年次 | 15 | — | — |
| 2年次 | 5以上12以内 | 17以内 | 17以内 |
| 3年次 | 5以上12以内 | 17以内 | 17以内 |
| 4年次 | 2以上14以内 | 17以内 | 17以内 |

イ. 体育実技Ⅱ・随意科目は制限科目数の枠外とする。

ロ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読み，間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

| 月 曜 日 | | | | |
|-------|-----------|--------|-------|-------|
| | 科目名 | 科目コード | 担任 | 担任コード |
| 一時限 | ドイツ語1G | 512201 | 百 済 | 879 |
| | ~~~~~ | | | |
| 二時限 | 保健体育理論(前) | 514201 | 長 浜 | 993 |
| | 保健体育理論(後) | 514201 | | 622 |
| | ~~~~~ | | | |
| 三時限 | 宗 教 学 I | 510101 | 平井(俊) | 735 |
| | ~~~~~ | | | |
| 四時限 | 論 理 学 | 510203 | 国 嶋 | 306 |
| | ~~~~~ | | | |
| 五時限 | 自然科学概論 | 510401 | 宇和川 | 104 |
| | ~~~~~ | | | |

正しい記入例

| 曜日 | 時限 | 再履 | 科目名 | 科目コード | 担任 | 担任コード |
|----------|----|----|-----------|--------|-------|-------|
| 月 (1) | 1 | | ドイツ語1G | 512201 | 百 済 | 879 |
| | 2 | | 保健体育理論(前) | 514201 | 長 浜 | 993 |
| | 3 | | 宗 教 学 I | 510101 | 平井(俊) | 735 |
| | 4 | ○ | 論 理 学 | 510203 | 国 嶋 | 306 |
| | 5 | | 自然科学概論 | 510401 | 宇和川 | 104 |

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - イ. 科目名・科目コード、担任名・担任コードが一致しない場合
 - ロ. 時限を誤って記入した場合
 - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例、0と6・1と7)
 - ニ. その他、不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

| 順序 | 授業区分 | 授業科目（適用） | 科目数 |
|------------|--------|--|-----|
| 1 | 一般教育科目 | 宗教学Ⅰ（必修） | 1 |
| 2 | 外国語科目 | 第1外国語，第2外国語（選択必修） | 4 |
| 3 | 保健体育科目 | 保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修） | 2 |
| 4 | 基礎教育科目 | 経済学概説，経営学概説（必修） | 2 |
| 5 | 専門教育科目 | 簿記学（必修） | 1 |
| 6 | 一般教育科目 | 人文分野 社会分野 自然分野 開講科目の中から4または5科目選択必修 （不足単位は2年次で履修） | 5 |
| | 専門教育科目 | | |
| 1年次履修制限科目数 | | | 15 |

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。
- ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て履修登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

- 1, 2, 3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習、プロゼミは追、再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 受 験 心 得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日、時、試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部、学科、学生番号、氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ス. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、又は代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机、壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作、メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

試験実施規程（抜萃）が（P27）掲載されているので参照のこと。

Ⅵ 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級及び注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

○注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。

○修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする）

| | 1年次から2年次 | 2年次から3年次 | 3年次から4年次 |
|------|----------|----------|---|
| 進級 | 30単位以上 | 60単位以上 | 90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。 |
| 注意進級 | 29～20単位 | 59～50単位 | 90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～16単位不足している場合。 |
| 原級留置 | 19単位以下 | 49単位以下 | 89単位以下。又は90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が17単位以上不足している場合。 |

進級規程及び進級基準が（P29）掲載されているので参照のこと。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

イ. 1・2年次は学科毎にクラス制をとっている。

ロ. クラスはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

経営学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程、学校図書館司書教諭講座、社会福祉主事講座および社会教育主事講座である。（ただし、社会福祉主事講座は59年度以降の入学生より適用。）

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、社会福祉主事および社会教育主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会福祉を増進させるための機関等、および青少年に対して行われる組織的な教育活動である教育施設の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。（授業科目の講義内容は当該履修要項の講義内容を参照すること）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

| 課 程 ・ 講 座 名 | | 備 考 |
|-----------------------|-------|-------------|
| 教 職 課 程 | 2年次より | |
| 学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座 | 〃 | |
| 社 会 福 祉 主 事 講 座 | 〃 | 59年度入学生より適用 |
| 社 会 教 育 主 事 講 座 | 〃 | |

IX 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。
- ニ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。

2. 授業時間について

授業時間は、次表のとおりである。

| 時 限 | 第1時限 | 第2時限 | 第3時限 | 第4時限 | 第5時限 |
|-----|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 時 間 | 9:00～ 10:30 | 10:40～ 12:10 | 12:50～ 14:20 | 14:30～ 16:00 | 16:10～ 17:40 |

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

| 種 類 | | 要 領 | 必 要 書 類 | 本人印 | 保証人印 | 取扱窓口 |
|-----|-----------------|--|---------------------------------------|-----|------|------|
| 届 | 単 位 履 修 届 | 年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。 | 所定用紙あり | 要 | 不要 | 掲示 |
| | 欠 試 届 | やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照) | 所定用紙あり | 不要 | 不要 | ⑨ |
| | 改 氏 名 届 | 変更後1週間以内に届け出ること。 | 所定用紙あり戸籍抄本1通添付 | 要 | 不要 | ⑤ |
| | 本 籍 地 変 更 届 | 変更後1週間以内に届け出ること。 | 所定用紙あり戸籍抄本1通添付 | 要 | 不要 | ⑤ |
| | 保 証 人 変 更 届 | 変更後1週間以内に届け出ること。 | 所定用紙あり在学誓書(保証書)添付 | 要 | 要 | ⑤ |
| | 保 証 人 住 所 変 更 届 | 変更後1週間以内に届け出ること。 | 所定用紙あり | 要 | 不要 | ⑤ |
| | 死 亡 届 | | 所定用紙あり死亡診断書添付 | | 要 | ⑤ |
| 願 | 休 学 願 | 病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。 | 所定用紙あり傷害・疾病による場合は医師の診断書添付 | 要 | 要 | ⑤ |
| | 復 学 願 | 休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7月までとする。 | 所定用紙あり傷害・疾病による休学をした場合は医師の通学可能である証明書添付 | 要 | 要 | ⑤ |
| | 退 学 願 | 傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。 | 所定用紙あり学生証添付 | 要 | 要 | ⑤ |
| | 転 部 ・ 転 科 願 | 事前に教務部に相談すること。 | 所定用紙あり | 要 | 要 | ⑦ |

XI 各種証明書取扱い窓口

| 証 明 書 名 | 取 扱 窓 口 | 料 金 |
|--|-----------|----------------------------------|
| 成 績 証 明 書 | 教務部④番 | 一 通 100円 (英文証明書) (一通 300円) |
| 卒 業 (見 込) 証 明 書 | | |
| 学 士 証 明 書 | | |
| 教 員 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書 | | |
| 単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉) | | |
| 一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書 | | |
| 在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る) | 教務部⑤番 | |
| 人 物 考 査 書 | 就 職 部 | |
| 健 康 診 断 証 明 書 | 学 生 部 ③ 番 | |
| 在 学 証 明 書 | 学 生 部 ② 番 | |
| 学 割 | | 無 料 |
| 通 学 証 明 書 | | 無 料 |

※経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から10月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜萃）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときはこれを実施しない。
- (1) 学部1, 2, 3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。

- (2) 授業料その他の学費を納入していること。
- 2 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
 - 3 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
 - 4 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

1 この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和59年12月18日改正

(目的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

(進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

(注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。

ア 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

イ 経済学部、経営学部、経済学部第2部、経営学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。

ウ 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

(原級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

附 則

この規程は、昭和60年4月1日から施行し、昭和60年度入学生から適用する。ただし、昭和59年度以前の入学生については、昭和62年3月31日までは、なお、従前の進級基準によるものとする。

進 級 基 準

この基準は、駒沢大学学則第14条に基づき、上級学年に進級する場合の基準を次のように定める。

(正規進級)

第1条 上級学年に正規進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

1. 1年から2年に進級する場合、卒業所要単位のうち、30単位以上。
2. 2年から3年に進級する場合、卒業所要単位のうち、60単位以上。
3. 3年から4年に進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

(注意進級)

第2条 正規の進級基準には、達しないが教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が、再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

1. 1年から2年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
2. 2年から3年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
3. 3年から4年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上を取得するも、その内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が1～16単位までとする。

付 則

この基準は、昭和51年4月1日より施行する。

講義内容目次

| | |
|------------|------|
| 一般教育科目 | (33) |
| 保健体育科目(共通) | (39) |
| 随意科目 | (42) |
| 基礎教育科目 | (45) |
| 専門教育科目 | (46) |
| 教職および資格講座 | (57) |

一般教育科目

人文分野

| | |
|-------------------------|----|
| 宗教学Ⅰ(佐藤 達玄) | 35 |
| 宗教学Ⅰ(石川 力山) | 35 |
| 宗教学Ⅰ(伊藤 隆寿) | 35 |
| 宗教学Ⅰ(山内 舜雄) | 35 |
| 宗教学Ⅰ(再クラス)(岡部 和雄) | 35 |
| 宗教学Ⅰ(再クラス)(奈良 康明) | 35 |
| 宗教学Ⅱ(皆川 広義) | 35 |
| 宗教学Ⅱ(椎名 宏雄) | 36 |
| 宗教学Ⅱ(石井 修道) | 36 |
| 哲学(高橋久一郎) | 36 |
| 論理学(小宮山 隆) | 36 |
| 倫理学(国嶋 一則) | 36 |
| 文学(野中 雅行) | 36 |
| 歴史学(茂澤 方尚) | 36 |

社会分野

| | |
|--------------------|----|
| 法学憲法(西 修) | 37 |
| 法学憲法(茂野 隆晴) | 37 |
| 社会学(岩上 真珠) | 37 |
| 地理学(中島 義一) | 37 |
| 統計学(後藤儀一郎) | 37 |
| 文化人類学(小島 清志) | 37 |
| 文化人類学(村武 慶) | 37 |

自然分野

| | |
|---------------------|----|
| 自然科学概論(齊藤 浩三) | 38 |
| 自然科学概論(篠原 正雄) | 38 |
| 自然科学概論(清水 善和) | 38 |
| 数学(福田 賢一) | 38 |
| 心理学(大塚 秀治) | 38 |
| 心理学(鈴木 順一) | 38 |

保健体育科目(共通)

| | |
|------------|----|
| 体育実技 | 39 |
|------------|----|

随意科目

| | |
|--------------------------------|----|
| 比較思想特講(窪 徳忠) | 42 |
| ドイツ語F(栗原 万修) | 42 |
| ドイツ語FLL(初級)(松本 洋子) | 42 |
| ドイツ語FLL(中級)(小林佳世子) | 42 |
| フランス語F(小玉 齊夫) | 42 |
| フランス語FLL(初級)(松岡 宏一) | 42 |
| フランス語FLL(初級)(マドレーヌ・マルタン) | 42 |
| フランス語FLL(中級)(マドレーヌ・マルタン) | 42 |
| 中国語F(刈間 文俊) | 43 |
| 中国語FLL(初級)(果 基英) | 43 |

| | |
|------------------------------------|----|
| 中国語FLL(中級)(羅 濠明) | 43 |
| スペイン語F(佐藤玖美子) | 43 |
| スペイン語FLL(初級)(ホワン・ナバロ) | 43 |
| スペイン語FLL(中級)(ホワン・ナバロ) | 43 |
| ロシア語F(前期)(杉山 秀子) | 43 |
| (後期)(岡沢 宏) | 43 |
| ロシア語FLL(初級)(タチャーナ・パリーソヴナ・野村) | 43 |
| ロシア語FLL(中級)(タチャーナ・パリーソヴナ・野村) | 43 |
| 日本語F(初級)(留学生対象)前期(杉山 秀子) | 43 |
| 後期(大塚 純子) | 43 |
| 日本語F(中級)(留学生対象)(大塚 純子) | 44 |

基礎教育科目

| | |
|--------------------|----|
| 経済学概説(永田 智則) | 45 |
| 経営学概説(小野寺孝一) | 45 |

専門教育科目

| | |
|---------------------------|----|
| 簿記学(近藤 禎夫) | 46 |
| 簿記学(中平 榮一) | 46 |
| 簿記学(渡辺恵一郎) | 46 |
| 簿記学(片桐 伸夫) | 46 |
| 簿記学(木下 照嶽) | 46 |
| 簿記学(東海 幹夫) | 46 |
| プロゼミⅠ(経営コース)(高田 光明) | 46 |
| プロゼミⅠ(経営コース)(平山 健二) | 47 |
| プロゼミⅠ(会計コース)(長松 秀志) | 47 |
| プロゼミⅠ(会計コース)(久松 治夫) | 47 |
| プロゼミⅠ(経済コース)(池田 健) | 47 |
| プロゼミⅠ(経済コース)(中村雄次郎) | 47 |
| 経営学(鈴木 幸毅) | 47 |
| 会計学(片桐 伸夫) | 47 |
| 経営史(前田 和利) | 48 |
| 経営管理論(鈴木 幸毅) | 48 |
| 企業形態論(渡辺 行男) | 48 |
| プログラミング論(清水 忠良) | 48 |
| プログラミング論(山崎 和海) | 48 |
| 原価計算論(近藤 禎夫) | 48 |
| 経済原論(中村雄次郎) | 49 |
| 近代経済学(前期)(滝田 公一) | 49 |
| (後期)(谷口 洋志) | 49 |
| 日本経済史(北島 万次) | 49 |
| 統計原論(後藤儀一郎) | 49 |
| 民法Ⅰ(山崎 敏彦) | 49 |
| プロゼミⅡ(経営コース)(石名坂邦昭) | 49 |
| プロゼミⅡ(経営コース)(前田 和利) | 49 |
| プロゼミⅡ(会計コース)(近藤 禎夫) | 49 |

| | |
|----------------------------|----|
| プロゼミⅡ (会計コース) (渡辺恵一郎)..... | 50 |
| プロゼミⅡ (経済コース) (羽鳥 茂)..... | 50 |
| 商 法Ⅰ (山田 泰彦)..... | 50 |
| アメリカ経営学 (宮城 徹)..... | 50 |
| 経営財務論 (高田 光明)..... | 50 |
| 経営労務論 (掛谷力太郎)..... | 50 |
| 経営組織論 (平山 健二)..... | 50 |
| 経営技術論 (小野寺孝一)..... | 51 |
| 経営情報論 (加藤 武信)..... | 51 |
| 公益企業論 (石井彰次郎)..... | 51 |
| マーケティング論 (武田 康)..... | 51 |
| 商業経営論 (森宮 勝子)..... | 51 |
| 保険経営論 (石名坂邦昭)..... | 51 |
| 銀行経営論 (近沢 敏里)..... | 52 |
| 貿易経営論 (武田 康)..... | 52 |
| 日本経営史 (斎藤 憲)..... | 52 |
| 経営統計 (後藤儀一郎)..... | 52 |
| 上級簿記 (渡辺恵一郎)..... | 52 |
| 財務会計論 (久松 治夫)..... | 52 |
| 管理会計論 (長松 秀志)..... | 52 |
| 経営分析論 (片桐 伸夫)..... | 53 |
| 税務会計論 (鈴木 明男)..... | 53 |
| 会計監査論 (中平 榮一)..... | 53 |
| 証券市場論 (柿崎 暎次)..... | 53 |
| 商業史 (山田 勝)..... | 53 |
| 経済政策 (西山 司)..... | 53 |
| 財政学 (山口 忠夫)..... | 53 |
| 金融論 (石野 典)..... | 54 |
| 国際経済論 (永田 智則)..... | 54 |
| 国際金融論 (池田 健)..... | 54 |
| 日本経済論 (羽鳥 茂)..... | 54 |
| 民法Ⅱ (伊藤 進)..... | 54 |
| 外書講読 (英) (宮城 徹)..... | 54 |
| 外書講読 (英) (山田 勝)..... | 54 |
| 外書講読 (英) (平山 健二)..... | 54 |
| 外書講読 (独) (松岡 晋)..... | 55 |
| 外書講読 (仏) (中村雄次郎)..... | 55 |
| 外書講読 (中) (松本 丁俊)..... | 55 |
| 外書講読 (ス) (佐藤玖美子)..... | 55 |
| 商 法Ⅱ (今井 薫)..... | 55 |
| 労働法 (掛谷力太郎)..... | 55 |

一 般 教 育 科 目

人 文 分 野

宗 教 学 I

佐 藤 達 玄

人間社会における宗教の役割や、文化一般との関係を広い視野の下に考察し、東洋社会における諸宗教を通覧する。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I

石 川 力 山

前期は、宗教とは何かという問題を中心に考察し、さらに個人と宗教、社会と宗教、国家と宗教の問題について、機能論、文化論の立場から考えてみる。また世界各国の民族宗教（ユダヤ教、ヒンズー教、神道等）について概説する。

後期は、世界宗教（Universal Religion）と呼ばれるキリスト教・イスラム教・仏教について概観し、特に日本文化と深いかわりを持つ仏教思想について詳しく述べる。また、日本人と宗教、現代と宗教の問題についてもふれる。

〔教科書〕 駒沢大学仏教学研究室編『宗教学Ⅰ』（更生社） ¥1,950

〔参考書〕 水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I

伊 藤 隆 寿

現在の日本における宗教事情を端緒として、人間生活と宗教、宗教の諸類型、個人及び社会と宗教、宗教のはたらき、そして宗教の歴史（原始から世界宗教）を概観し、最後に仏教の基本事項を講義する。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社） ¥1,950

〔参考書〕 岸本英夫『宗教学』（大明堂）

宗 教 学 I

山 内 舜 雄

「宗教学Ⅰ」を使用し、宗教に対する一般的説明から入ってゆき、宗教の人生における意義、宗教の世界的視野からの役割等を理解すると共に、仏教のもつ世界宗教としての意味および思想的・歴史的展開の全貌を把握するよう、つとめて今日的立場より平易に概説する。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』山内舜雄編

宗 教 学 I（再クラス）

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題を現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教的のをしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）、『仏教の歩んだ道Ⅰ』（東京書籍）

宗 教 学 I（再クラス）

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

皆 川 広 義

はじめに、日本人の心に大きな影響をあたえてきた仏教について、教主積尊の教えを中心に概説する。

次に、仏教のなかで、生活化された仏教といわれる禅について、その歴史を中国・日本へとたどりながら、思想や創造した禅文化について考究したい。

〔教科書〕 『宗教学Ⅱ』山内舜雄編（更生社）

宗 教 学 II

椎 名 宏 雄

宗教学Ⅰで学んだ基礎知識にもとづき、仏教思想の中で多くの特長をもって現代に生きている禅について、基本的な理解を旨とする。

講義内容はノート筆記と解説を主とし、1. 仏教と禅 2. 禅の歴史、3. 禅の実践、4. 禅の思想、5. 禅と文化、6. 禅と経営、の順に進める。ただし、単なる知識の吸収にとどまらず、随時に自己との関連したテーマをとりあげ、現実の問題として学生諸君とともに考えてゆきたい。

〔参考書〕 鎌田茂雄『現代人の仏教』（月刊ペン社）

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学Ⅱとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Ⅰの後を承けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ課目である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅でいう自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』山内舜雄編（更生社）
¥1,950

哲 学

高 橋 久 一 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕『哲学思想の歴史』（公論社）

論 理 学

小 宮 山 隆

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考するべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむしろのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

倫 理 学

国 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか、理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の獲得に努める。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

文 学

野 中 雅 行

「文学的精神の考察」——近代作家、森鷗外・谷崎潤一郎・川端康成らの作品を読みすすめ、必要に応じて、仏教・心理・歴史・言語学など、非文学的分野からの検討を試みるにより、文学的精神の在り方を特色づけてゆく。「文学」一般の特性にも考察をすすめる。

〔教科書〕 各種文庫本を用いる予定。詳細は教場で指示する。

歴 史 学

茂 澤 方 尚

中国古代史上異民族の動向は明白であるとはいいがたい。本年もひきつづいて、その異民族の動向を探ることを中心にしながら、基本的文献の取り扱い等の歴史学の基礎的問題について解説する。

〔参考書〕 適宜授業中に指示する。

社会分野

法学憲法

西 修

講義は、法学と憲法とに大別して行なう。法学においては、法の概念、法の目的、法の種類等について概説する。憲法は、条文に従いながらも、重要な問題点をピックアップして、憲法的物の考え方を養うようにする。講義は、できるかぎり具体的、かつわかり易さを旨とした。時間の配分から憲法に重点がおかれるものと思われる。

〔教科書〕 関口雅夫・西修編著『法学・憲法』（方南書林）¥2,500

法学憲法

茂野隆晴

平素の日常生活では意識することが少ないかもしれないが、人々は多様な法制度に囲繞され生活している。こうしたもて、平穏な暮らしを営むことを願うならば、正しい法知識、法的素養を身につけることは必須の要件といつてよい。

講義では前半において、わが国法制の歴史的変遷、現代国家の仕組みなどを概観したうえで、現代法のもつ特性を明らかにし、後半は教養としての憲法を念頭におき、現行憲法全文にわたる解釈を行ないたい。

教室には六法全書を携行すべきである。

〔教科書〕 『法学概説』（芦書房）¥2,300

〔参考書〕 適宜指示します。

社会学

岩上真珠

人間行動を社会との関連で理解するための基礎知識を修得することを目ざす。講義では、上記のテーマに対し、関係、集団、組織、制度、システムといった諸点からアプローチしてみたい。

〔教科書〕 『現代社会学入門』〔第2版〕、(有斐閣双書)

〔参考書〕 講義中、適宜指示します。

地理学

中島義一

人文地理学の諸分野のうち、都市・交通・集落等を中心に、歴史地理学的視点より講義する。下記教科書のほか、地図帳（高校生の時に使用したものでよい）を忘れずに持ってくること。

〔教科書〕 矢守一彦『空からみた歴史量観』（大明堂）

統計学

後藤儀一郎

統計学は経営学や経済学は言うにおよばず、医学、社会学、自然科学などの各方面で広く用いられている。およそ実証研究しようとするとき、統計学の知識なしにできる場合というものは少ない。

統計学とは何か、統計学的考え方とはどのようなものかについて、学習する。

〔教科書〕 『現代統計解析』吉野・後藤（芦書房）¥2,700

文化人類学

小島清志

現代のごとく情報が広範に錯綜する社会において、自分と他者がより良く共存するために、その根底とすべき柔軟な視座はどこに求められるのか。またこの社会と文化をいかにとらえることが可能なのか。それは我々の生き方と直接結びついてくる問題であろう。文化人類学は解決への一つの入口を与えてくれる方法であろうと思う。身近な経験や見聞なども手がかりにしながら、一緒に検索していきたい。

〔教科書〕 教科書は特に指定せず、講義中に参考書を適宜紹介する。

文化人類学

村武慶

私達は、ややもすると、自分達の生活様式、家族・親族の形態、自分達の宗教を最高のものと思いがちであるが、必ずしもそうではないことを、いろいろな民族、社会を比較して学んでいきたい。

〔教科書〕 『文化人類学を学ぶ』（有斐閣）¥1,100

〔参考書〕 『文化人類学』（有斐閣双書）

自然分野

自然科学概論

斉藤 浩三

まず、地球の構成ならびに性状を概述し、ついで地圏・水圏・気圏にまたがる諸事象のうち、われわれの生活に大きな影響をおよぼす大気汚染、水質汚濁などの環境問題や自然災害の実態をさぐり、さらにこれらの防止技術の現状について講義する。

自然科学概論

篠原 正雄

実証に基礎を置きつつ世界の法則性を捕えようとする科学の方法は、まず自然科学の中で確立されてきた。本講では、科学の方法をとらえることを目標としつつ、物理学・天文学など各分野の発展の歴史を論じる。

〔教科書〕 未定

自然科学概論

清水 善和

地球の誕生から人類の出現まで、生物の進化に主眼を置きつつ、生化学や地球物理学など関連分野の成果を取り入れながら、地球の歴史を概観する。

数 学

福田 賢一

現代数学の概念や方法を、幅広い実用面との関連に留意し、解説する。内容は次の通りである。

1. 論理, 2. 線形代数, 3. 解析学, 4. 確率・統計。

〔教科書〕 『入門新しい数学』大学自然科学教育研究会編（東京教学社）

心 理 学

大塚 秀治

心理学は人間の“こころ”と“行動”をその研究対象とした科学である。ここでは心理学の基礎的な問題を学び心理学的な研究方法、考え方を身につける。また、時間が許せば簡単な実験を行ない、実際の場面で理解を深める。

〔教科書〕 開講時に示す。

〔参考書〕 『新心理学』（八千代出版）

心 理 学

鈴木 順一

パーソナリティの理解と開発を中心として、心理学の基礎的な知識の学習を進めたい。この授業の単位を取るとは極めて難しく、主体的学習意欲が望まれる。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）¥1,400

保健体育科目(共通)

実技種目の概要及び指導教員名

一年次生種目〈玉川校舎〉

室内球技(玉川体育館)

宮沢 栄作・光永 吉輝
村松 誠・久保田洋一
関本美津子

バレーボール、バスケットの基礎技術の習得とともに、ゲームにより、その競技を理解する。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

体操(玉川体育館)

竹田 幸夫

マット、鉄棒などを中心に、初心者を対象とした遊戯的内容から出発し、段階的に技を習得する。

服装：一般的運動服装，体操シューズが望ましい。

トレーニング(玉川体育館)

田中 佳孝・高森 秀蔵
武藤 幸政

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し、主に最新のトレーニング器械を使用した体力トレーニングを行う。このトレーニングの目的は体力の増進、内臓器官の強化である。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

柔道(玉川体育館)

光永 吉輝

初心者を対象として基本技能(受け身)、応用技能(投げの形)(固の形)等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

剣道(玉川体育館)

上山 智身

剣禅一致の精神に基き、初心者を対象として次の順序で実施する。

1. 基本動作
2. わざ
3. 懸り稽古，互格稽古
4. 試合稽古

服装・試験については最初の授業において説明する。

空手道(玉川体育館)

大石 武士・高橋 俊介

拳禅一致の精神に基き、初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技(空気を相手に、受、突、打、蹴技の反復練習)
2. 形(基本の受、突、打、蹴を合理的に構成したものを空気を相手に行う)
3. 護身術
4. 約束基本組手(基本技で取得した、受、突、打、蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手)

服装は原則として空手道衣着用のこと。

相撲(玉川体育館)

館岡 儀秋

基本技(攻の型・守りの型)の練習を主に、併せて応用技の習得を行い、心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相撲パンツを着用する。

陸上競技(玉川グラウンド)

森本 葵

駒大式四種競技(100米、長距離、砲丸投、走高跳)を行い、得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが、普通のトレパンでも可。なお、スパイクの着用は原則として認めない。

ソフトボール（玉川グラウンド）

太田 誠・原山 良勁
竹田 幸夫・幸前 芳孝

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ、トレパン。グラブ、ミットは貸与する。

サッカー（玉川グラウンド）

秋 田 浩 一

基本技術を中心として練習し、毎時間ゲームを行う。服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

ハンドボール（玉川グラウンド）

村 松 誠

パス、シュート等基本技術を中心にゲームを行う。服装は、トレシャツ、トレパン、運動靴を用意すること。

テニス（玉川グラウンド）

牧野 茂・田中 佳孝
高橋 俊介・浅野 鉦世

ゲーム（ダブルス）中心の授業を行う。服装は、一般的運動服装（白のトレーニングパンツまたは短パンツが望ましい）とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

卓 球（玉川校舎）

原山 良勁・宮沢 栄作
村松 誠・秋田 浩一
関本美津子・幸前 芳孝

ゲーム（シングル、ダブルス）中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。室内履シューズを用意すること。ラケットは貸与する。

太 極 拳（玉川体育館）

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体の健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

ゴ ル フ（玉川グラウンド）

三幣 晴三・館岡 儀秋

ゴルフスイングの基礎技術の習得とともに、ゴルフで最も肝要とされるルールとマナーの基本的理解により、正しいゴルフの精神を身につける。服装は一般的運動服装とする。グローブは必ず着用すること。

実 技 教 場 案 内

玉川体育館・グラウンド・校舎：
世田谷区宇奈根1-1-1（学生手帳を参照）
TEL (709) 0717 保健体育部

再履修生種目〈本校〉

室 内 球 技（本校体育館）

三幣晴三・森本 葵・竹田幸夫

基礎技術の習得と併せて、ゲームにより、その競技を理解する。（バレーボール、バスケットボール、その

他)

服装：一般的運動服装，上履用運動靴。

太 極 拳（本校第二体育館）

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し，精神・身体の健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

剣 道（本校第二体育館）

上 山 智 身

剣禅一致の精神に基き，初心者を対象として実施する。服装・試験については最初の授業において説明する。

実 技 教 場 案 内

(1) 本校体育館：本学内，男子更衣は三階東側スタンド（ステージに向い左側）。女子は三階西側の更衣室（ステージに向い右側）。

TEL (418) 9517・9213 体育教員室

(2) 本校第二体育館：本学内，相撲道場の隣，一階は柔道場，二階は剣道・空手道場。更衣室は各階にある。

TEL (418) 9201 体育教員室

随 意 科 目

比較思想特講

窪 徳 忠

従来から私の考えている異なった文化が出会った場合、換言すれば、外来文化が伝来した場合、双方の文化の変化についての仮説をのべ、ついでその具体例として中国文化、とくに宗教の日本への伝来と受容について検討し、私の考えを検証しようと思う。

〔教科書〕 使用せず、私のノートとする。

〔参考書〕 『道教入門』（南斗書房）¥2,800

『中国宗教における受容・変容・行容』（山川出版社）¥4,200

ドイツ語 F

栗 原 万 修

昨年につづきドイツと日本の民話をドイツ語で読みながら、さらにいろいろな資料を参考にして、民話の本質を考察したい。テキストおよび資料はその都度配布する（無料）。

ドイツ語 FLL（初級）

松 本 洋 子

基本的な文型や語彙を身につけ、簡単な日常会話が出るようにしていきたい。またビデオやテープを用いて、生きたドイツ語を聴きとる能力をつけていきたいと思う。

〔教科書〕 テキストはその都度配布するが、無料。

ドイツ語 FLL（中級）

小 林 佳 世 子

一年次のドイツ語（1G, 1R）を終えた者を対象に、ビデオテープ等の視聴覚教材を用いて様々な生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力を高めること、また基本的な文型や語彙を身につけ、それを応用してドイツ語の表現力を養うことを主な目的とする。さらにドイツ語の背景にある風俗習慣や文化、歴史等にも目を向けるようにしたい。

〔教科書〕 適宜プリントを配布する。

フランス語 F

小 玉 齊 夫

3年ほど前に、フランスの現代思想に関して、およそ1900年から1940年ほどまでの流れを、概略、迎ってきましたので、今年度は、その延長として、1950年代以降の思想（さまざまな領域での）の展開を眺め、把握を試みる予定です。教材・資料は、講義のたびに、適宜、指示しますが、解説書と原著とを併用します。フランス語の読解力は、あるにこしたことはありませんが、特にこだわりません。

フランス語 FLL（初級）

松 岡 宏 一

“Le Français et la Vie”を教材として用いる予定です。スライド画面とテープの音とを併用して、基礎的な表現能力を養成したいと思います。会話は、音を真似ることから始められなければならないので、積極的に授業に参加し、フランス語を聞いたり話すことに慣れるようにして下さい。また、途中であきらめることなく、一年をとおして出席し、少しでも「フランス語」の中に入りこむことができるように、希望したいと思います。テキストは教場で配布します。

〔教科書〕 “Le Français et la Vie”

フランス語 FLL（初級）

マドレーヌ・マルタン

“De Vive Voix”を教材とし、その第1課から、実用的なフランス語の会話練習をします。さまざまな状況に応じた表現に慣れ、基礎的なちからを養うことを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕 “De Vive Voix”

フランス語 FLL（中級）

マドレーヌ・マルタン

初級クラスと同じ方法で、“De Vive Voix”の第5課から（履修学生の語学力によって多少の変更はあります）

始めます。より一般的なフランス語会話の習得をめざします。

〔教科書〕 “De Vive Voix”

中国語 F

刈 間 文 俊

中国語を二次次まで学んだものを主たる対象とし、文学作品の講読を通してより上のレベルへの向上を目的とする。ここ数年来の新しい作品を選び、文学言語としての中国語の可能性をも考察したい。

〔教科書〕 教場にてプリントを配布する。

中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にて視聴覚教材のコピーを配布する。

中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語 FLL 初級を終えたもの、又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。映画・録音なども教材として使用します。テキスト：必要に応じて、教場でプリントを配ります。

スペイン語 F

佐 藤 玖 美 子

本講座は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指すものです。特に読解力と作文力の養成に力を入れたいと思います。テキストとしては、ワシントン・アービングの“アルハンブラ物語”のスペイン語訳を予定しています。

スペイン語 FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。

スペイン語 FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 LL 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

(前期) 杉山秀子・(後期) 岡沢宏

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

ロシア語 FLL (初級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

ロシア語 FLL (中級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

日本語 F (初級) (留学生対象)

前期 杉山秀子・後期 大塚純子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦勞しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている

留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

日本語 F (中級) (留学生対象)

大塚純子

日本語 F の初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHK の教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

——一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎教育科目

経済学概説

永田智則

本講義では、経済学の基礎知識の習得に努める。

講義内容

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. 経済学の課題と方法 | 8. 国民所得の概念 |
| 2. 家計の消費行動 | 9. 消費・投資関数 |
| 3. 企業の生産行動 | 10. 国民所得の決定 |
| 4. 市場価格の決定 | 11. 所得決定における貨幣的要因 |
| 5. 競争と独占 | 12. 物価変動 |
| 6. 市場機構の効率 | 13. 国際貿易 |
| 7. 所得分配 | 14. 国際収支と外国為替 |

〔教科書〕 開講時に指示する。

経営学概説

小野寺孝一

1. 日本における経営学の方法
——教科用専門書において考える——
2. 経営経済学の課題と経営技術論
3. 資本主義経済における経営(1)
——経営の主体，特に株式会社における経営の主体について——
4. 資本主義経済における経営(2)
——経営の技術，特にマネジメントについて——
5. 社会主義経済における経営
——中国経済において考える——
6. 経営学のカリキュラム

〔教科書〕 『経営学：方法論考』（白桃書房）¥2,000

〔参考書〕 『経営技術論』（白桃書房）¥2,000

専門教育科目

簿記学

近藤 禎夫

社会科学としての簿記・会計学は、計算技術的側面の理解のみにおわってはならない。

それが現実の社会・経済において、どのような役割を果たしているのかという点もあわせて解明する必要がある。このような視点から、一年間みっちり簿記論を講じてみたい。

〔教科書〕 敷田礼二編『資本主義と簿記』（全訂版）
〔1984年〕（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕 山口 孝『企業分析—経済民主主義への基礎』〔1977年〕（新日本出版社）
野村秀和『現代の企業分析』〔1977年〕
（青木書店）

簿記学

中平 榮一

商企業を中心とする複式簿記の原理について詳しく講述する。なお、出来るだけ多くの記帳練習問題をとりあげることとしている。

簿記学

渡辺 恵一郎

簿記の基礎知識をしっかり理解してもらいます。「数学嫌い」の人でも数字に強くなるよう、一步一步踏まえていくことが大切です。簿記の対象は、日常の経済活動であり、具体的内容です。また簿記はとくに企業の姿を計数的に表現しますから、他の専門教育科目とも密接な関連があり、その基礎的素養が充実してくれば、次第に「経営を見る」心が得られるでしょう。

毎時間の出席率と宿題提出が重視されます。

〔教科書〕 太田哲三・新井益太郎共著『新講簿記原理』（中央経済社）

簿記学

片桐 伸夫

簿記とは「帳簿記入」の略語であり、読んで理解する学科ではなく、文字どおり、記帳訓練によってその技術を体得する学科です。したがって、受講生は常にレポート提出が要求されることを前提として受講下さい。

〔教科書〕 沼田嘉穂『簿記教科書』（同文館）

簿記学

木下 照嶽

この講義では、会計学および経営学系統の学習にとって、欠くことのできない、簿記の基本的な原理を理解することに重点をおく。記帳練習、レポート提出および定期テストが要求される。全出席を念頭に真面目に勉学してほしい。

〔教科書〕 東京簿記教育協会編『簿記テキスト』および『簿記問題集』

簿記学

東海 幹夫

企業を合理的に経営していくためには、計数による管理が不可欠です。複式簿記のシステムからアウトプットされる貸借対照表と損益計算書のデータは、企業に関係する様々な人々に貴重な情報となります。

この講座では、この複式簿記の基本原則を習得してもらいます。講義は、一回一回の積み重ねによって総合的な理解を得るように進められますから、学年末にまとめて勉強しようといった気持は捨ててください。

〔教科書〕 青山学院大学会計学研究室編『簿記練習帳』

プロゼミ I（経営コース）

高田 光明

このプロゼミでは、経営学部これから籍を置く学生にとって必要な初歩的・基礎的知識を学ぶことを通して、高等学校までの勉強の単なる延長ではない、今までとは質的に異なる大学での学問の仕方というものを各自

修得することを目的とする。

プロゼミ I (経営コース)

平山 健二

受験で培った英語学力を活かして、「Introduction to management」的なものを、まじめに勉強して行きます。

プロゼミ I (会計コース)

長松 秀志

会計学の勉強の第一歩である複式簿記の理論と記帳練習を行って行くとともに、コンピュータ会計の初歩を勉強するために必要に応じてパソコンの実習を行う。

〔教科書〕 沼田嘉穂『簿記教科書』、同『記帳練習帳』
(同文館)

〔参考書〕 学年始めに指示する

プロゼミ I (会計コース)

久松 治夫

工業会計の中核に位置するものは工業簿記と原価計算であるといわれるが、本年度のプロゼミは、下記の教科書を使用し、原価計算の基本問題について授業を進める予定である。内容は次の通り。

I 工業の一般財務会計 II 実際原価計算

III 要素別原価計算 IV 部門別原価

V 個別原価計算 VI 総合原価計算

〔教科書〕 久松治夫著『原価計算論』(成文堂)
¥1,500

〔参考書〕 開講時に指示する。

プロゼミ I (経済コース)

池田 健

新聞等により時事的に国際金融問題を研究する。

プロゼミ I (経済コース)

中村 雄次郎

現在、日本をはじめとして、世界各国の政治や経済の動きは、きわめて複雑な姿をみせております。しかし、一見したところ、なんの関係もないような現象の中に、実は密接な関連のひそんでいることが多くあります。したがって、このような関連をとらえ、複雑・多岐な姿をみせている現象を体系的に理解し認識しておく必要があります。このプロゼミでは、できるだけ多くの問題を取り上げて行きたいと思いますが、さしあたり、わが国の経済が中東の石油に依存している関係から、下記の著作を素材として、中東と先進資本主義との間における石油問題をとり上げたいと思います。

〔教科書〕 瀬木耿太郎著『日東情勢を見る眼』(岩波新書)

経営学

鈴木 幸毅

1. 資本主義企業の発展
(1)資本主義的自由競争, (2)独占資本主義, (3)国家独占資本主義, (4)資本主義の全般的危機

2. 経営学の対象
(1)企業・経営の特質, (2)企業管理

3. 経営学の諸問題
(1)組織行動, (2)経営戦略, (3)社会的責任, (4)その他

〔教科書〕 鈴木幸毅著『企業と管理の理論』(税務経理協会)

会計学

片桐 伸夫

「会計は企業の経済活動を貨幣金額によって正確に表現することが任務である。」(テキスト序より)が、とはいえ、正確な貨幣金額への換算(すなわち評価)は容易なことではない。ここに、会計が学問として成立する理由があるように思われる。本講では1年次に学習した簿記の知識をもとに、最終的に財務諸表が調整されるまでの各種の会計評価手続をできるだけ平易に概説する予定である。

〔教科書〕 沼田嘉穂『会計教科書』(同文館)

経営史

前田 和利

経営史は「企業経営とは何か」について史的に答えていくことに研究の意義がある。講義では、経営史学の課題と方法を検討し、そのうえにたつて事例研究をふまえて、企業経営の一般的発達史を論ずる。そこでは経済過程や文化構造と関連させながら、企業経営者のタイプ、経営形態、企業形態、組織と管理などの問題に焦点をあてる。

〔教科書〕〔参考書〕 開講時に指示します。

経営管理論

鈴木 幸毅

1. 伝統的管理論
2. 人間関係論
3. 近代管理論
4. 管理論の新潮流

(1)システム論的管理論, (2)行動科学的管理論, (3)組織環境論, (4)組織間関係的管理論, (5)組織統治論と管理論, (6)組織変革の管理問題, (7)その他

〔教科書〕 W. G. スコット他著・鈴木幸毅監訳『組織理論』(八千代出版)

企業形態論

渡辺 行男

講義すべき主要な問題は以下のとおり。

- ① 企業形態の史的分析(とくに、2と3)
 1. 重商主義段階
 2. 自由主義段階
 3. 帝国主義段階
- ② 現代資本主義における企業形態
 1. 現代株式会社(持株会社・Konzernなど)
 2. 現代公企業(公社・国家持株会社・国家Konzern)
 3. 現代協同組合(生協・中小企業協同組合)

〔参考書〕 開講時に指示する。

プログラミング論

清水 忠良

最近の電子計算機の発達は著しく、社会生活の種々の

分野に活用されている。中でもパーソナルコンピュータの普及は目覚ましく、個人用としても広く使われるようになってきている。電子計算機に仕事をさせようとするときに使う言葉、それがプログラミング言語である。

本講ではこれら言語のうち、初心者用向け言語 BASIC について解説する。これはパーソナルコンピュータにおいて最も多く使われている言語である。講義と平行して実習も行なう。プログラミングの考え方や技術を身につけ、電子計算機を自分の道具として経営学の学習に役立ててほしい。

〔教科書〕 戸川隼人『PC-9801 BASIC』
(サイエンス社) ¥2,200

プログラミング論

山崎 和 海

情報処理並びにコンピュータ・システムというものを、経営学の立場より広い視野から把握していくことに注力しながら

① BASIC プログラミングを通しての論理的思考の修得

② パーソナルコンピュータの実習を通しての、問題解決のためのアルゴリズムの修得

に重点を置くとともに、

③ 情報化社会の変貌に応じた現代的な情報処理ツールの習得

に配慮する。

〔教科書〕 間野・佐藤・中沢共著『新 BASIC 教科書』(実教出版) ¥1,600

〔参考書〕 野々山隆幸著『PC-8801 プログラミング入門』(ナツメ社)

原価計算論

近藤 禎 夫

1985年度においては、下掲のテキストにより以下に示す内容を講義する。

① 資本制的原価計算の役割とその考え方

② 原価計算の概要

③ 原価の費目別計算

④ 原価の部門別計算

⑤ 個別原価計算の方法

⑥ 総合原価計算の方法

⑦ 標準原価計算

⑧ 経営計画と原価計算

⑨ 社会主義の原価計算方法

⑩ 原価計算の歴史

〔教科書〕 開講時に指示する。

〔参考書〕 敷田礼二・近藤禎夫共著『原価公開—経済民主主義への布石』〔1976年〕（新日本出版社） ¥430

経済原論

中村 雄次郎

昭和59年度に開講された「経済学概説」の後をうけ、その続きを講義します。つまり2年間の時間をかけて「経済原論」の講義をすることになりますが、しかし、最後の「地代論」まで進みうるかどうか疑問です。講義の進捗が問題ではなく、内容の理解が重要だからです。月並みなことを言うようで気がひけますが、予習と復習をして下さい。抽象的な理論の連鎖が「経済原論」の特色ですが、かかる抽象的な思考を必要とするものは、講義を聞き流すだけでは、けっして理解できるものではありません。ただ、この平凡な努力を積み重ねて行けば、ついには寝食を忘れるほどおもしろくなるものだ、ということは断言できます。

〔教科書〕 岡崎次郎著『経済原論』
（法政大学出版局）

近代経済学

（前期）滝田公一・（後期）谷口洋志

中級マクロ経済学の講義を行います。なお滝田が留学予定のため、前期を滝田が、後期を谷口が担当致します。

〔教科書〕 開講時に指示します。

日本経済史

北島 万次

第1部 アジア的生産様式論と日本の原始・古代の経済史

第2部 日本の封建的社会構成体論

第3部 日本の本源的蓄積

〔教科書〕 逆井孝仁、北島万次他著『日本経済史』
（有斐閣新書） ¥900

統計原論

後藤 儀一郎

統計学は経営学や経済学は言うにおよばず、医学、社会学、自然科学などの各方面で広く用いられている。お

よそ実証研究しようとするとき、統計学の知識なしにできる場合というものは少ない。

統計学とは何か、統計学的考え方とはどのようなものかについて、学習する。

〔教科書〕 『現代統計解析』吉野・後藤（芦書房）
¥2,700

民法 I

山崎 敏彦

民法のうち、総則・物権を対象とする。説明にあたっては、判決例をできるだけ多く示すなどにより、具体的理解が得られるよう努めたい。なお、聴講に際しては、小さなものでよいから、六法を必らず持参されたい。

〔教科書〕 我妻・有泉 『民法I』（一粒社）

プロゼミ II（経営コース）

石名坂 邦昭

経営学に関する基礎的なテキストを用い講義を進めて行く。各自テーマを決め発表してもらおう。テキストは開講時に指定する。

プロゼミ II（経営コース）

前田 和利

テキスト（未定）を読みながら討論し、企業経営の諸問題を経済過程、組織、文化構造の面から史的に把握する方法を養っていきたい。

プロゼミ II（会計コース）

近藤 禎夫

経営・会計上の理論的ならびに現実的諸問題をミーティングの都度とりあげ、これらの学習を通じて社会科学とは何であるのか、またそれはどのように学ぶべきかという基本的命題にアプローチする。なお「プロゼミII」の場合、3年次以降の「演習」に準じた運営方式をと

り、学習の水準もまた同程度である。したがって研究意欲ないし積極的な学問への取り組みが必要である。

〔教科書〕 開講時に指示する。

プロゼミⅡ（会計コース）

渡 辺 恵 一 郎

前年のプロゼミⅠに引き続き、簿記の基礎知識を習得させる。とくに日本商工会議所の簿記検定試験（2級の商業簿記及び工業簿記を中心に）を受験したい人々を対象に、問題集の解答、解説を行う。

〔教科書〕 開講時に指示する。

プロゼミⅡ（経済コース）

羽 鳥 茂

本年度は経済分析や経営学でしばしば用いられている数学について勉強します。線形代数と微分・積分が中心になりますが、時間が許せばもう少しレベル・アップしたところまでゆきたいと考えています。基礎的な数学の知識の修得とその経済学や経営学への応用に慣れることが主目的です。練習問題を出しますので、それを解くことによって自分の理解度を確かめることは必須の条件になります。教科書、参考書は開講時に指示します。

商 法 Ⅰ

山 田 泰 彦

企業活動の中心的単位である会社（とくに株式会社）の法構造を商法がいかに体系づけているかをみることにする。株式会社法を中心に講義することになるが、株式会社法は、複雑な体系をなしているため、その基本的な骨格を明らかにするよう講義したい。

〔教科書〕 荒木正孝『商法総則・会社法（Ⅰ）』（成文堂）

〔参考書〕 大山・永井他『現代商法Ⅱ 会社法』（三省堂）

アメリカ経営学

宮 城 徹

経営学がすこぶる間口の広い学問であることは否定しない。こうして、アメリカ経営学における教科編成という観点からみれば、そこには多様な領域がカバーされるのでなくてはならない。この講座では、こうしたいわば多面的特徴をもつ、アメリカ経営学のほぼ全体的な姿

を明らかにする、という趣旨で、最も先端的展開としてのコンティンゼンシー理論に重きを置きつつ、かんたんに表現すれば、少なくとも、以下の項目を順次とりあげ講義を進めるつもりである。

1. 制度・新制度学派
2. 伝統的管理論
3. 意思決定理論
4. 組織の性格
5. 組織構造
6. 組織過程
7. 組織と社会、その他

〔参考書〕 宮城 徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）

経営財務論

高 田 光 明

財務とは資本の調達と運用をいう。企業における財務の問題は、労務とともに、企業経営上考慮すべき重要な事がらである。企業の財務を研究対象とする経営財務論は、所要資本の調達問題から、調達資本の運用問題へと研究の中心が移ってきている。この授業では、経営財務論の以上のような現状を考慮しつつ、基礎的な事がらを中心に、理解を深めるために適宜事例も取り入れて講義するつもりである。基本的参考書等は授業の始めに指示する。

経営労務論

掛 谷 力 太 郎

日本の労働管理（労務管理）一般体系を概説するとともに、以下の項目について、資本主義社会と社会主義社会の労働管理比較をおこなう。

1. 労働管理の本質と社会制度
2. 競争の問題と社会制度
3. 賃金管理と社会制度
4. 労働組合と社会制度
5. 経営参加と社会制度
6. 婦人労働と社会制度
7. 人間性尊重の管理と社会制度

〔教科書〕 掛谷力太郎『労働管理と社会制度』（白桃書房）

経営組織論

平 山 健 二

今日、これまでの機能的で分権化された組織では十分満足とはいえず、チームやシステム構造が現れている。また、普遍的な設計が存在するのでなく、各企業の使命や戦略にふさわしい重要な活動をめぐって、それぞれ設計されねばならないことを理解したい。

経営技術論

小野寺 孝 一

経営という行為を、経営思想・経営政策・経営技術に分けらるゝとする。経営思想・経営政策を社会科学(史観)によってとらえることに問題はない。しかし経営技術はそれによってどうとらえるのか。経営は技術などではない。科学の適用なのであるから、それを社会科学によってとらえるとはおかしなことをいうと考えるとすれば、認識の違いである。科学であればどんな社会でも適用できることになる。しかし技術となるとそうはゆかない。それは単に科学の適用だけでなく社会との関係において成立するものであるから。その社会的本質をもつ。経営技術論とはその本質を把握する論考である。この論考は経営の実践には欠くことはできないものである。

〔教科書〕『経営技術論』(白桃書房) ¥2,000

〔参考書〕『経営学：方法論考』(白桃書房) ¥2,000

経営情報論

加藤 武 信

経営管理におけるMIS(経営情報システム)の特質、構造および機能について、理論と技術の両側面から考察する。すなわち、①MISの基礎、②MISの理論と技法、③MISの役割のそれぞれに関する内容、特徴および問題点を明らかにする。

現在、ME(マイクロエレクトロニクス)の技術革新が急速なテンポで進行し、その基盤に支えられた高度な情報化社会が到来しつつある。OA(オフィスオートメーション)の進展や第5世代コンピュータの開発計画により、企業における情報システムの構築内容がどのように変化するのか、現時点で我々ほどのような対策を講じるべきか等について検討を試みる。

〔教科書〕『経営情報システム』長松秀志(白桃書房) ¥2,900

〔参考書〕『経営情報論』山本純一(丸善)

『日本経営機械化史』米花 稔(日本経営出版会)

公益企業論

石 井 彰 次 郎

1. 公益企業概念の成立
2. 公益企業の先駆形態
3. 競争と独占
4. 政府の規制

5. 公共企業体

以上のテーマの下、理論的・歴史的観点より解明を行なう。

〔教科書〕講義において指示する。

マーケティング論

武 田 康

現代マーケティング論は経営システム論をベースとしてアメリカにおいて体系化された戦略経営論である。講義ではそれが発達を遂げた背景のアメリカの経済社会環境との関連において理論的体系を明らかにしてゆくこととする。

〔教科書〕『整合戦略の経営』武田 康(創成社)

¥3,200

商業経営論

森 宮 勝 子

商業経営論とは、生産者と最終消費者との中間にあって、商品もしくはサービスを購入・販売することを業とする中間業者の活動をその研究対象とする。低経済成長下の今日、商業経営も減量経営を余儀なくされ、新たな対応が求められている。又、所得水準の高度化にともなう消費者の欲求の多様化により、販売ターゲットとしての消費者の的確な把握は、ますます難しくなりつつある。このような環境下において商業経営はいかに行なわれるべきかを小売業を中心に立地分析、店舗管理、商品政策、仕入政策、商品管理等の諸領域より検討する。

〔教科書〕『新小売マーケティング』宇野政雄編著

(実教出版) ¥2,100

保険経営論

石 名 坂 邦 昭

近年、企業危険の科学的管理を目的とするリスク・マネジメント研究がさかんに行われるようになってきた。そこで、本講義においては今日厳しい環境下におかれている各企業がいかに合理的に企業危険をコントロールするか、また危険移転としての保険とはいかなるものであるのかといった問題につき実証研究をまじえながら、前期においてリスク・マネジメントを、後期において保険全般について考察する。

〔教科書〕『リスク・マネジメントの基礎』石名坂邦

昭(白桃書房) ¥2,500

銀行経営論

近 沢 敏 里

急速に進行しつつある規制の緩和、金融の国際化によって、現代日本の銀行経営の基盤は大きくゆさぶられている。このような時こそ、銀行経営の基本に立ちもどって今後の発展にそなえる必要がある。

講義では、銀行発展の歴史、各種金融機関とその業務内容、金融界をめぐる競争条件の変化、金融政策との関係などを広い視野に立って取り扱う。金融革命と呼ばれる新しい動きもできるだけ取り上げたい。

〔教科書〕 北原道貫編『銀行読本』（東洋経済新報社）
¥1,800

貿易経営論

武 田 康

外国貿易が直接投資による多国籍化経営に発展している現実に対応して外国貿易、直接投資に関する諸問題の理論的側面を探究するとともに、日米両国の外国貿易と直接投資による現地生産の類型を歴史的視点から比較し総合商社をはじめ日本型国際経営の特質を講義することとする。

〔教科書〕 武田 康『国際経営の基礎的諸問題』（白桃書房）

日本経営史

齋 藤 憲

新興財閥を中心に講義を進める。財閥と言うと一般には三井、三菱、住友等を考えがちであるが、昭和戦前期、重化学工業化の進展の中で、これら既存の財閥に対抗して成長した企業集団があった。日産、日室、森、日曹、理研がそれで、新興財閥と呼ばれる。その革新に満ちた経営は戦後経営の先取りであった。新興財閥の先進性と限界を観ることによって、明治以降の近代的経営がなぜこれら新興財閥を生み出さねばならなかったのか、日本の経営の戦前と戦後との継続と断絶とは何か、考えてみたい。

〔教科書〕 宇田川勝『昭和史と新興財閥』（教育社歴史新書）¥800
森川英正『日本財閥史』（教育社歴史新書）
¥600

経営統計

後 藤 儀一郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学分野においても広く用いられている。統計学はもはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものではない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を論理的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながら、それらが実際においてどのような応用（例えば統計的品質管理、実験計画、線形計画等）されるかを、学習する。

〔参考書〕 『現代統計解析』吉野・後藤（芦書房）
¥2,700

上級簿記

渡 辺 恵一郎

1年次の「簿記学」を基礎に、その応用能力を養い、簿記の理論を、問題解答、解説により展開する。各種の簿記検定試験や国家試験（公認会計士、税理士など）に挑戦する意欲の旺盛な人々が受講するよう希望。なお、指名、割当制により問題解答をしてもらおう。

〔教科書〕 開講の時に指示する。

財務会計論

久 松 治 夫

本年度の講義は、下記の教科書を使用し、財務会計の基本問題について述べることとする。内容は次の通り。

- I 企業会計の構造 II 企業会計制度
- III 資産会計 IV 負債会計 V 資本会計
- VI 損益会計 VII 財務諸表

〔教科書〕 新井清光著『財務会計論』（中央経済社）
¥2,700

〔参考書〕 開講時に指示する。

管理会計論

長 松 秀 志

現代管理会計の論拠、本質、対象、方法、発展過程、計算構造、現実的役割および実践の問題について体系的に説明する。とくに現代管理会計の中心課題である意思決定会計と情報会計の理解を深めるように講義する。

〔教科書〕 長松秀志『現代管理会計』（税務経理協会）
¥2,900

〔参考書〕 学年始めに指示する。

経営分析論

片桐伸夫

経営分析の伝統的、基本的方法から現在着目されている方法までを大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性、生産性の分析にポイントを置きます。

- (1) 収益性分析
- (2) 流動性分析
- (3) 生産性分析
- (4) 成長性分析
- (5) 社会性分析

〔教科書〕 開講の時指示します。

税務会計論

鈴木明男

税務会計の基本的課題は課税所得および租税負担額の算定である。ところで課税所得は租税特有の理念に左右され、本来の経済計算である会計上の利益や商法上の利益とは内容が異なっている。講義では、租税特有の理念とそれに導かれる課税所得の計算構造、そして課税所得と企業会計および商法会計との関連と違いを研究する。次いで、租税は個人と法人の双方に係ることから、個人の所得への課税を取扱う所得税と、法人の所得を取扱う法人税の具体的内容に立入る。

〔教科書〕 赤間研一・鈴木明男共著『基本税務会計』（税務経理協会）

会計監査論

中平榮一

主として、独立監査人による財務諸表監査（証券取引法監査及び商法監査）について講述する。なお、当然、監査役監査及び内部監査に言及する。

証券市場論

柿崎暎次

下記事項を中心に証券市場のメカニズムを説明する。

1. 株式・社債の発生
2. 国民経済と証券市場

3. 証券市場発展の経過
4. 株式市場（発行、流通）
5. 公社債市場（発行、流通）
6. 証券取引所
7. 証券会社
8. 投資信託
9. 企業内容の開示
10. 証券金融

〔教科書〕 『図説 日本の証券市場』財経評報社

〔参考書〕 上林正矩『証券市場論』上、下（千倉書房）

商業史

山田勝

現代商業の生成・発展の歴史を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえる。対象とする時代は西欧については16世紀以降、日本については19世紀中ば以降とする予定である。

〔教科書〕 山田勝『近代イギリス貿易経営史』（増補版）（創成社）¥2,300

経済政策

西山司

本年度の経済政策の講義は、経済政策の理論および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定である。

特に「価値判断」論争をめぐる諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果すべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努める。

〔教科書〕 ノートを中心に講義する。

〔参考書〕 清水・松原編『経済政策論を学ぶ』（有斐閣）¥1,400

財政学

山口忠夫

国民経済的観点から国の現実の財政活動を検討しつつ、予算、経費、租税および公債に関する諸問題について考察、説明する。なお、財政投融资についても言及する予定である。

〔参考書〕 『図説 日本の財政』（昭和60年度版）（東洋経済新報社刊）

金融論

石野典

金融とは何か？ 資金余剰から資金不足へ資金が流れること、それが貯蓄と投資とをつなぎ、現在と将来との間の資源配分を効率化させる。こうした金融活動を分析するのだが、今日、経済の低成長化とともに大きく変化している。それを金融革命ともいう。こうした現実を考え講義をしたい。講義内容の主要点はつぎの通り。

(1) 金融とは、(2) 金融システム、(3) 貨幣とその需給 (4) 金利の決定その諸問題、(5) 金融市場（各国比較）(6) 金融機関、(7) 各経済主体の金融行動、(8) 金融の国際的側面、(9) 金融政策。

講義方式はノート形式。年1回金融に関するレポート（原稿用紙5～6枚程度）を提出し、試験は年1回。

〔参考書〕 石野・中山共編『貨幣経済の分析』（学文社）¥2,000

国際経済論

永田智則

個々の経済主体が国境を越えておこなう経済活動は、国際経済における固有の相互依存と相互対立を生み出し、さまざまな国際経済現象をひきおこしている。本講義ではこれら国際経済現象の解明の手がかりの習得を目的として、国際経済の基本的理論を簡潔かつ平明に提示する。

〔教科書〕 開講時に指示する。

国際金融論

池田健

拙著国際金融論により国際金融の理論を講じ、なお必要により時事問題を解説する。

〔教科書〕 池田 健『国際金融論』

日本経済論

羽鳥茂

現在の日本経済がかかえている諸問題を理論的・実証的に分析し、その対応策を短期的および中・長期的な視点から考えてみる事が主要な課題です。そのために、マクロ経済学を基礎にして日本経済の諸問題にアプロー

チするという方法を採用します。そして理論と現実の橋わたしとして計量経済学にも触れたいと考えています。

〔教科書〕 浜田宏一、黒坂佳央『マクロ経済学と日本経済』（日本評論社）

〔参考書〕 中谷 巖『入門マクロ経済学』（日本評論社）

民法Ⅱ

伊藤進

債権法全体につき概説するが、とくに契約法に重点を置く。

〔教科書〕 『契約法』伊藤進編（学陽書房）¥2,200

〔参考書〕 『民法概説2』（有斐閣）

外書講読（英）

宮城徹

この講座では、現代経営学の基本問題を中心的に取り扱っているアメリカの最新の文献を素材とするが、そのさい、英文の正確な和訳という側面はもとより、内容の正確な把握という側面に力点を置きつつ、可能なかぎり、相当量の英文の大意を迅速に把握できるという諸君の質的・量的レベルアップを指向して訓練する予定である。

〔教科書〕 講義の開始時に指定する。

外書講読（英）

山田勝

商業史に関する論文を講読する。受講者はコピーを教科書とする。毎時間出席し、発表することが望ましい。なお、教材は授業のはじめに指示する。

外書講読（英）

平山健二

経営コース（会計でなく）の講読をしますが、テキストは初回の授業で決めます。

外書講読(独)

松岡 晋

本講義の目的は、独和辞書を用いて、経済・経営等の専門書を読む訓練をすることにあります。したがって、受講者は、毎回必ず一定の分担箇所について下調べしておくことが要請されます。1-2年次で身につけた文法的基礎にみがきをかけ、ドイツ語の専門文献を読む力をつけようという意欲のある方の受講を切に希望します。テキストとしては、J.クチンスキーの著書を予定しておりますが、参加者の希望によって変更する場合があります。少数の場合は、私の研究室で行うことも考えております。

〔教科書〕 プリントにて配布

〔参考書〕 その都度指示する。

外書講読(仏)

中村 雄次郎

1) 受講者が、これまでに習得してきた学力にあわせて講読をすすめたいと思います。

2) (a)講読にあたり、フランス経済の歴史と現状を学び取ることはいうまでもありませんが、そのためには経済のみならず、広く文化現象をも取り上げる必要があります。(b)最近、日本に対する諸外国の関心が、ただ単に経済のみならず、諸々の文化についても高まっているように思われます。わたくしたちは、自国の経済や文化を、もう一度学びなおし、これを正確に伝える必要があります。(c)また、フランス側からも日本経済の研究がなされ、成果が発表されています。さし当り、(c)の検討より始め、(a)の必要を充たし、できれば(b)まで進みたいものです。

〔教科書〕 新聞、雑誌、学術書等からコピーして配布します。

外書講読(中)

松本 丁俊

近代中国のイデオロギーを知るために、アヘン戦争当時の上海金融状況及び19世紀日中資本主義の成敗を解明しつつ、中国の近代化に及ぼさせた影響をさぐる。授業は原文をコピーし、読み合せながら訳を中心としてすすめる。従って年間を通しての成果は中国の新聞など解説出来ることになる。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 『中国近代史』(商務印書館)

外書講読(ス)

佐藤 玖美子

この授業は、学生諸君が1・2年で習得したスペイン語の知識を継続的に発展・深化させ、社会に出てからも役に立ちうる語学力を身につけることを目指したいと思っております。テキストは第一回目の授業の際に指示します。

〔教科書〕 未定

商法Ⅱ

今井 薫

手形法・小切手法を中心に、あわせて商行為法を概説する。これらは現代社会の取引の基本構造を構成するものであり、技術性も高く理解も困難であるので、主体的受講がのぞまれる。

〔教科書〕 開講の時に指示する。

労働法

掛谷 力太郎

本年度は概ね次の内容の講義をおこなう。

1. 労働法生成発展の歴史
2. 労働法学の発展過程
3. 現行労働法の問題点(特に労働三法について)
4. 日本の労働法と欧米諸国の労働法との比較
5. 公共部門労働者の労働基本権

教職および資格講座

教 職 課 程

学校図書館司書教諭講座

博物館学講座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座の履修要項」を参照）

| 課程・講座名 | 資格取得学部 |
|-------------|-------------------|
| 教 職 課 程 | 全学部 |
| 学校図書館司書教諭講座 | 全学部 |
| 博物館学講座 | 文学部・仏教学部 |
| 社会福祉主事講座 | 全学部（59年度入学生より適用） |
| 社会教育主事講座 | 文学部・経済学部・法学部・経営学部 |



目 次

| | | | |
|-------------------------|---|---|----|
| 教育原理(磯野 昌藏) | 1 | 人文地理学概説(高木 久) | 7 |
| 教育原理(上岡 安彦) | 1 | 社会学原論(渡辺 源樹) | 7 |
| 教育原理(村山 輝吉) | 1 | 経済原論(小野 俊夫) | 7 |
| 教育原理(坂本 信昭) | 1 | 政治学原論(飯山 勇) | 7 |
| 教育原理(北村 三子) | 1 | 民法 I(山崎 敏彦) | 8 |
| 青年心理学(伊藤 研一) | 1 | 哲学特講 I(東洋)(篠原 寿雄) | 8 |
| 青年心理学(武井 澄江) | 1 | 哲学特講 II(西洋)(国嶋 一則) | 8 |
| 青年心理学(藤崎 春代) | 1 | 宗教学特講 I(松田 文雄) | 8 |
| 青年心理学(牟田 悦子) | 1 | 宗教学特講 II(脇本 平也) | 8 |
| 青年心理学(渡辺三和子) | 2 | 宗教学特講 III(洗 建) | 8 |
| 教育心理学(伊藤 研一) | 2 | 教育史(磯野 昌藏) | 8 |
| 教育心理学(久慈 洋子) | 2 | 宗教教育(松本 皓一) | 8 |
| 教育心理学(武井 澄江) | 2 | 教育関係法規(北村 三子) | 8 |
| 教育心理学(中村 均) | 2 | 教育関係法規(船木 正文) | 9 |
| 教育心理学(藤崎 春代) | 2 | 図書館学 I(山崎 慶子) | 9 |
| 教育心理学(荻野美佐子) | 2 | 図書館学 II(前期 高橋 信行) | 9 |
| 教育心理学(渡辺三和子) | 3 | (後期 山崎 慶子) | 9 |
| 道德教育の研究(万羽 晴夫) | 3 | 博物館学 I(倉田 芳郎) | 9 |
| 教育実習(磯野 昌藏) | 3 | 博物館学 II(林 俊雄) | 9 |
| 教育実習(上岡 安彦) | 3 | 博物館実習 I(館務)(倉田芳郎・清水潤三) | 9 |
| 教育実習(村山 輝吉) | 3 | 博物館実習 II(収集)(倉田芳郎・葉貫磨哉・所理 喜夫・高浜 秀) | 10 |
| 教育実習(坂本 信昭) | 3 | 博物館実習 III(見学)(倉田芳郎・林 俊雄) | 10 |
| 教育実習(北村 三子) | 3 | 博物館実習 IV(特講)(58年度以前入学生適用) (林 俊雄) | 10 |
| 国語科教育法(神谷 道倫) | 4 | 視聴覚教育(赤堀 正宜) | 10 |
| 書道科教育法(谷村 義雄) | 4 | 日本文化史 I(圭室 文雄) | 10 |
| 宗教科教育法(松本 皓一) | 4 | 印度仏教文化史(奈良 康明) | 10 |
| 英語科教育法(大沢 一雄) | 4 | 西洋文化史 I(榎川 一朗) | 11 |
| 社会科教育法(地理)(高木 久) | 4 | 西洋文化史 II(阿部 重雄) | 11 |
| 社会科教育法(地理)(中島 義一) | 4 | 仏教美術(林 良一) | 11 |
| 社会科教育法(歴史)(野呂 肖生) | 4 | 現代美術(宮崎 克己) | 11 |
| 社会科教育法(谷敷 正光) | 4 | 禅美術(竹内 尚次) | 11 |
| 社会科教育法(長谷部八朗) | 5 | 美術史概説(林 良一) | 11 |
| 社会科教育法(大久保治男) | 5 | 西域美術史(林 良一) | 11 |
| 職業科教育法(佐藤 規子) | 5 | 考古学概説 I(日本)(倉田 芳郎) | 11 |
| 商業科教育法(谷敷 正光) | 5 | 考古学概説 II(外国)(飯島 武次) | 12 |
| 商業実習(前田 幸一) | 6 | 考古学特講 II(飯島 武次) | 12 |
| 職業指導(山田 勇治) | 6 | 考古学特講 IV(高浜 秀) | 12 |
| 産業概説(和田 禎一) | 6 | 日本民俗学(山折 哲雄) | 12 |
| 世界史概説(中村 道雄) | 6 | 仏教民俗学(和田 謙寿) | 12 |
| 世界史概説(渡辺 惇) | 6 | 宗教人類学(佐々木宏幹) | 12 |
| 日本史概説(芥川 龍男) | 6 | 考古発掘実習(飯島 武次) | 12 |
| 日本史概説(波田野富信) | 7 | 社会福祉概論(岡田 真) | 12 |
| 地誌学概説(今朝洞重美) | 7 | 障害福祉論(原田 信一) | 13 |
| 地誌学概説(長野 覚) | 7 | 社会福祉実習 I(岡田 真) | 13 |
| 地誌学概説(渡邊 盾夫) | 7 | | |
| 自然地理学概説(早船 元峰) | 7 | | |

| | |
|--------------------|----|
| 社会福祉法制（小林 弘人） | 13 |
| 公的扶助論（小沼 正） | 13 |
| 児童福祉論（原田 信一） | 14 |
| 老人福祉論（奥山 正司） | 14 |
| 社会保障概論（小沼 正） | 14 |
| 地域福祉論（岡田 真） | 14 |
| ネットワーク論（高橋 重宏） | 14 |
| グループワーク論（前期 松本 栄二） | 15 |
| （後期 春見 静子） | 15 |
| 社会福祉事業発達史（林 千代） | 15 |
| 母子福祉論（林 千代） | 15 |
| 医療社会事業論（春見 静子） | 15 |
| 社会福祉方法総論（高橋 重宏） | 15 |
| 社会福祉管理運営論（重田 信一） | 16 |
| リハビリテーション論（原田 信一） | 16 |
| 社会教育概論（磯野 昌蔵） | 16 |
| 社会教育方法論（村山 輝吉） | 16 |
| 社会教育行政財政（酒匂 一雄） | 16 |
| 教育社会学（熊谷 一乗） | 16 |
| 社会心理学（坪井 健） | 17 |
| 社会教育施設（村山 輝吉） | 17 |
| 児童教化（富田 博之） | 17 |
| 青少年問題研究（和田 謙寿） | 17 |
| 青少年指導演習（和田 謙寿） | 17 |
| 社会教育演習（上岡 安彦） | 17 |
| 教育法規研究（神田 修） | 18 |
| 成人指導及青少年指導（酒匂 一雄） | 18 |
| 生活指導（秋山 さと子） | 18 |
| 教育哲学（汐見 稔幸） | 18 |
| 教育調査（大塚 雄作） | 18 |
| 教育学特講（熊谷 一乗） | 18 |

教育原理

磯野昌蔵

教育とは何か
中等教育の歴史と問題
青年期の特徴と中等教育
中等教育の教育課程

教育原理

上岡安彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じるものとします。

〔教科書〕『エミール』(上・中・下)岩波文庫
上¥550, 中¥450, 下¥450

〔参考書〕『教育学研究入門』(東大出版会) ¥1,800

教育原理

村山輝吉

前半は主として下村湖人の教育論などを軸に、教育とはなにかということを中心に原的に考察する。後半は、いくつかの実践記録をとりあげ、それを読みあうことを通して、今日の教育がかかえている問題点を追究したい。

教育原理

坂本信昭

1. 私たちの受けた教育をふりかえってみよう。2. ひとの成長・発達・成熟。3. 家庭の役割、地域のはたらき。4. 学校に期待されるもの。5. 授業のなかみを考える。6. 学習をふかめる。7. 人格をはぐくむ。8. 障害児について。9. 内なる差別を考える。10. 教師について。11. 教育制度を見直す。12. 学びへの出発(生涯教育)。という全体構成とテーマについてともに考えていきたい。

〔参考書〕『教育原理』(学芸図書) ¥900

『ビジュアルノートきょういく』(エイデル研究所) ¥未定

教育原理

北村三子

自分達の受けてきた教育の性格や問題点をより広い視野から捉え直すことを目標に、前半では近代公教育の歴史の成立とその性格について触れ、次いで民族学・民俗学・動物行動学などの知見を通して教育の原型を探ってみたい。また後半では、現代社会における教育の諸形態とその機能を今日の教育問題にもふれつつ検討する予定である。

〔参考書〕 適時指示

青年心理学

伊藤研一

青年の心理の諸相を、発達段階、精神分析的理解の境地から概観する。必要に応じて臨床事例や実証的研究を紹介する。

青年心理学

武井澄江

青年期を乳幼児、児童期から成人への発達系列の中に位置づける。その上で、人間に特有だといわれるこの時期の発達上の特徴をとらえていく。特に、人格、人間関係、価値観など社会的生活の側面が中心となるだろう。なお、講義の中で、人格検査等の実習も行う予定である。

青年心理学

藤崎春代

前半は、乳児期から児童期までの発達を、各期の発達課題に焦点をあてつつ概観する。後半は、青年期の諸問題について検討する。

青年心理学

牟田悦子

青年期は第二の誕生といわれるが、出生以来つくりあげてきたパーソナリティの変革と再構成の時期である。はじめに、人間の発達の中での青年期を位置づける。こ

れは青年期にある受講者の自己理解の作業も含む。次に現代の青年たちがかかえている問題、教育の場で問題となっている様々なことがらについて共に考えていきたい。

〔参考書〕『中学生の心とからだ』(岩波書店) ¥950,
『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)
¥950

青年心理学

渡辺三和子

前期は人格が形成されるとはどのようなことか、青年期は人格の形成にとってどんな位置にあるのか、青年期の特徴は何か、等を検討する。後期は、中・高校生に起こりがちな問題行動について述べる。

教育心理学

伊藤研一

教育心理学を発達、学習、人格、適応等の諸側面について概説する。

〔教科書〕『教育心理学・改訂版』倉石他編著(新曜社)
¥1,500

教育心理学

久慈洋子

子どもの発達の道すじを述べ、教育がどのように関与して発達を支えていくかについて論ずる。具体的には、次のような流れに沿って授業をすすめる。

- 1) 発達とは何か
- 2) 発達と教育
- 3) 発達の諸側面(認知・思考、情動、自我形成など)
- 4) 教授・学習の過程
- 5) 個人差と教育
- 6) 学習の評価・テスト
- 7) 教師と学級経営
- 8) 児童文化——子どもの考えていること

〔参考書〕『教育心理学』(有斐閣新書) ¥580, 『児童心理学 テキストブック心理学(4)』(有斐閣) ¥1,100 『子どもの能力と教育評価』(東大出版会) ¥980

教育心理学

武井澄江

「発達」「学習」「パーソナリティと適応」「集団」「評価」などに関する心理学的知見を概説する。心理テストの実習も含む。

教育心理学

中村均

人間の変化を、①時間的な変化を視点にして眺めた「発達」、②経験を視点にして眺めた「学習」、③変化が人によって異なる点に着目しての「個人差」、④1人だけみた時と集団でみたときとは変化の具合が違う点に着目しての「学級集団の役割」、この4点から検討するとともに、その検討のためのデータを得る手段である「教育評価」について、概観する。

〔教科書〕東正(責任編集)『教育心理学要説』(川島書店)

教育心理学

藤崎春代

前半は、乳児期から青年期までの発達を、各期の発達課題に焦点をあてつつ概観する。後半は、教育をめぐるいくつかの問題(授業・評価・テスト・障害児、等)について検討する。

教育心理学

荻野美佐子

教育の過程を心理学的に理解し、科学的に考える態度を形成する。人間の発達やパーソナリティの理解のしかた、個人差についての考え方、学習のメカニズム、教育評価の方法、教師-生徒関係の力動性などについて講義する。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

教育心理学

渡辺三和子

前期は教育を受ける子どもをよりよく理解するために次の点を考察する。発達と学習、学習活動のメカニズム、知的な発達のみならず、動機づけ、個人差について。

後期は、教育方法と評価について述べる。個人差に応じた教育とは。さまざまな授業方法の試み、評価の方法について。

道徳教育の研究

万羽晴夫

今年度は、生徒指導という事柄に目をむけてみたいと思う。

子どもは、様々な場面で様々な行動を演じるのであるが、その際彼らは多様な意味を行動——表現に付与する。それらの意味を読みとり、解説していくことについて考えてみたい。

対象は、preadolescence から early あるいは mid adolescence にかけての子どもたちである。

別言すれば、本講義のテーマは、子どもにおける対人関係なし「子ども——子ども関係」の意味と構造の検討と述べてもよいかもしれない。

〔参考書〕ミード『精神、自我、社会』（青木書店）

教育実習

磯野昌蔵

実習前の指導

教育実習について諸注意
学習指導のための準備

実習期間中の指導

実習後の指導

教育実習の体験をもとにして、学習指導や生活指導
その他教育の現場における諸問題を検討する。

教育実習

上岡安彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義
学習指導案作製実習

訪問指導

実習期間中の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）
¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）
¥300

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥300

教育実習

村山輝吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解と関心が深まるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

現場における実習の体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面談等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

坂本信昭

本学の教育実習は“通年履修”となっており、教育実習前後の大学での授業はおおむね下記のとおりに進めません。

教育実習前の段階では、(1)教育実習の意義及び目標・内容（領域）に関する講義とそれに並行して、(2)実習校における教育実習の事例を示し、(3)教育実習の心得などについての事前指導を行う。

教育実習後は、(1)教育実習の口答報告、(2)レポート提出、(3)グループ編成による授業（ディスカッション）を行い教育への理解を深め、望ましい教師のあり方などについて考える、いわゆる事後指導を行う。

〔参考書〕『教えるということ』（共文社）¥580

『世界でいちばん自由な学校』（人文書院）
¥1,600

教育実習

北村三子

実習前は、教育実習の意義や心構えなどを過去の実習生の事例なども交えて講義や話し合いを行なう。実習後は各自の体験をふまえて、授業や生活指導上の問題や教師のあり方などについて考え合う。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・動向、ならびに学習内容(領域)、教材に即したそれぞれの指導方法について講義。後期は実際の教材にあたって、教材研究のあり方、指導事項、方法等々、主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法(新編)』(桜楓社) ¥1,200

書道科教育法

谷村義雄

1. 中高校に於ける「書写」教育の実際と、教材教具およびその基礎知識について講義する。
2. 古典研究
古典の臨書を中心に書法を研究する。
3. 講読
主として唐の孫過庭書譜を講読する。書の精神性と自然との同化を説く。

宗教科教育法

松本皓一

教職科目である宗教科の教育法を理論的に考察し、他日、教職に立った場合の基礎を培うことにする。カリキュラム・教材研究を中心とする。

〔参考書〕講義中必要に応じ指示する

英語科教育法

大沢一雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教授法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙(い)、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

社会科教育法(地理)

高木久

1. 教師としての在り方
2. 地理学方法論の確認
3. 地理教育について
4. 新学習指導要領の内容
5. 地図指導
6. 教育実習の意義
7. 学習指導案の研究
8. 模擬授業

前期において講義を中心とし、後期においては教室での演習を専一とし、その批判・反省を行なって行く。

社会科教育法(地理)

中島義一

中学・高校の社会科(地理)につき指導計画・指導案の立て方、教材研究、地理クラブ・修学旅行の指導法等につき講じ、後半は授業演習を行う。下記教科書のほか①中学校の社会科(地理)教科書と、②地図帳(中学生または高校生の時に使用したものでよい)を必要とする。①については授業時に指示する。

〔教科書〕山崎謹哉『新訂 地理教育の本質と実践』(古今書院)

社会科教育法(歴史)

野呂尚生

中・高等学校における社会科の授業はどのように展開すべきかを、とくに歴史分野を中心に考えてゆきたい。そのさい、とくに実践面にウエイトをおき、自らつくりだす授業ということを目標にしたいと思う。

社会科教育法

谷敷正光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりとした社会教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分

検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究』(1) (高陵社)

遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』(新日本出版新書)

無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)

その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

社会科教育法

長谷部 八 朗

社会科教育の主要な眼目の1つは、十全たる国民・社会生活を営む上で欠くことのできない社会的人格の形成をめざすところにあるといえよう。しかるに、それが実現のためには、以下の諸点が問題とされねばなるまい。すなわち、① 学習者に、日常生活の諸局面をめぐり、主体的に問いかけ、理解し、洞察する態度を育成させるような指導が求められる。② 学習者からこうした態度を引き出すためには、指導者自身が、単なる知識提供者に終わらず、物事を深く掘り下げ、見据える社会科学的視野を陶冶しておく必要がある。

かかる観点にたつて、本講義は、社会科教育のあるべきようを受講者と共に模索していきたい。より具体的な講義方針については、最初の授業で述べる。

〔教科書〕〔参考書〕 適宜指示する

社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

職業科教育法

佐 藤 規 子

職業教育は、教職を志す者に必要であるばかりでなく職業人として社会で貢献するうえでも重要である。本講座では、教職を志す者にすぐ役立つように、主として職業教育の実践に関する基礎知識・技能を体系的に講述する。講義の大筋は、次のとおりである。

1. 職業教育の意義及び重要性
2. 新しい職業教育観
3. 職業教育の内容
4. 職業教育の基礎知識

〔教科書〕 開講時に発表する。

商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなう、商業教育は大きく軌道修正されさらに、先端産業化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」と

いったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育（商業教育）の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）
矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 国民教育研究所『高校職業教育の改革』（草土文化社）
竹内宏『日本の学歴社会は変わる』（有斐閣）

田代三良『高校生』（岩波新書）
神田修『学校からみた教育政策』（有斐閣）
その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌なども使用する。

〔注意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

商業実習

前田 幸一

商品の流通とそれに係わる事務手続きについて勉強をする。

職業指導

山田 勇治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学単なる斡旋指導ではなく、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸長し、生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治著『会計教育論』（創成社）¥1,300円

〔参考書〕 近藤大正・有本章編著『職業と教育—職業指導編—』（福村出版）¥1,500円

産業概説

和田 禎一

資本主義経済発展の原動力は、産業革命以後の新しい産業の群生、その変化に負うところが大きい。そこで本講座では、まず産業の概念、産業構造、産業組織を、現代的視点で解説し、それらを基礎に、戦後日本の経済の展開にかかわってきた日本の産業と産業政策を、概観、分析、評価することにした。

〔教科書〕 授業にさいし適宜指示する。

世界史概説

中村 道雄

ヨーロッパ世界の成立と発展の次第を述べる。参考書は下記のもののほか、高校教科書も参考になる。また簡単な世界史地図も参照したい。問題意識をもって授業に臨むことを希望する。

〔参考書〕 衣笠茂ほか『概説西洋史』（東京創元社）、
尾鍋輝彦『西洋史概説』（学生社）『詳密世界史地図』（帝国書院）

世界史概説

渡辺 惇

アジア史を東アジア・東南アジア・南アジア（インド）・西アジア・内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の特色、推移について講義する。

〔教科書〕 特に定めず。プリント、資料を配布する

〔参考書〕 松田寿男『アジアの歴史』（NHK市民大学叢書21、日本放送出版協会）その他講義の中で指示する。

日本史概説

芥川 龍男

日本の中世に重点をおいて講述する。教科書は用いないが、講義の進行につれて参考書を紹介するので積極的

に読破すること、はなはだしい遅刻者については入室を
ことわるので注意してほしい。

日本史概説

波田野 富 信

中世から近世までを中心に講義する。前期は中世、後
期は近世とし、それぞれの政治・社会経済にわたって、
通史的に概説する。参考書は特に指定しないが、必要に
応じそでの都度紹介する。

地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質論を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を
講義する。

地誌学概説

長 野 寛

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したの
ち、現代世界の地域的特色を、自然環境やそれと関連性
をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習す
る。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほ
しい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎他共著『世界地誌』〔改訂版〕
(大明堂)

地誌学概説

渡 邊 盾 夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について講
義をする。受講希望者は地図帳を持参すること。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、
人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を
用意(10枚程度)させ、それらをもとに種々なる作業
(土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等
を作成)をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース
紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

人文地理学概説

高 木 久

地理学思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考
察する。「地理的な見方、考え方」の基礎の上に立って、
人文地理学の各部門(地図、自然、人文関係)について
概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

社会学原論

渡 辺 源 樹

社会的行為、地位、役割、同調、逸脱、準拠集団と所
属集団というような、社会学の基礎概念をふまえなが
ら、社会学とは、どのような学問であるのか、その学問
的特徴を明らかにし、現代に生きる人間にとって、ど
のような意味をもっているのか、社会集団の現実的な諸問
題をどうして、明らかにしてゆく。

経済学原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果を
も考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済
を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕 開講の際に指示する。

政治学原論

飯 山 勇

本講義は、政治学の基礎理論的部分をとりあげ、その
原理的究明に主眼を置いて講義を行なう。特に本講義で
は現代政治についての理解を深める意図から、現代国家
と政治過程に力点を置き、そのなかで大衆社会と政治的
諸問題、政治過程と政治集団などに触れつつ、さらに主
として、政治権力、国家、政治機構などを解明したい。

〔教科書〕 飯山勇『政治要論』(八千代出版)

民法 I

山崎敏彦

民法のうち、総則、物権を対象とする。説明にあたっては、判決例をできるだけ多く示すなどにより、具体的理解が得られるよう努めたい。なお、聴講に際しては、小さなものでよいから、六法を必らず持参されたい。

〔教科書〕 我妻＝有泉『民法 I』(一粒社)

哲学特講 I (東洋)

篠原寿雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 『老子』(中公文庫) ¥280円

〔参考書〕 その都度紹介したい。

哲学特講 II (西洋)

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りをしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教学特講 I

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講 II

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想、教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』(日新出版)

宗教学特講 III

洗建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

宗教教育

松本皓一

幼少時の宗教的情操培養、青年期の心理と宗教カウンセリング、高齢者社会に対する宗教的アプローチ、困難な問題であるが「死」に直面した人々への臨床的教化法の問題などを考えてみたい。

〔参考書〕 講義中随時指示する。

教育関係法規

北村三子

日本の教育法の基本的性格を理解するために前半では主として憲法・教育基本法成立の歴史的背景や意義を説明する。後半では、戦後の教育と法の動態をふまえて

今日の教育現場での教育法規と関わる諸問題を具体的に考察したい。

〔参考書〕 『教育小六法』(学陽社)

教育関係法規

船木正文

戦後教育の基本原則を定めた教育基本法を中心に教育関係法規を概説する。その際、今日の教育現場で生起している学校事故、体罰、管理強化などの具体的な諸問題を教育関係法規と関連させながら取り上げることにする。

〔教科書〕 とくに教科書は使用しないが、参考用テキストについては講義の際紹介する

〔参考書〕 『解説教育六法』(昭和61年版)、三省堂発行 ¥2,000

図書館学Ⅰ

山崎慶子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか、それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』(学芸図書)

図書館学Ⅱ

(前期) 高橋 信行

(後期) 山崎 慶子

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料を主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」を講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』(学

芸図書)

『図書館学演習資料 後編』(全国学校図書館協議会)

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ(見学)」ならびに「実習Ⅳ(特講)」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難かしいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」(2単位)も履修することが必要である。受講方法について、誤まりの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

林 俊雄

開講時に指示する。

博物館実習Ⅰ(館務)

倉田 芳郎・清水 潤三

博物館で10日間以上の学芸員についての実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・葉貫磨哉・所理喜夫・高浜 秀

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の子定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・林 俊雄

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

博物館実習Ⅳ（特講）

（58年度以前入学生適用）林 俊雄

開講時に指示する。

視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材の利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新につながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔注〕 特別教科書は使用しない。

〔参考書〕 大内茂男・中野照海他編『視聴覚教育の理論と研究』（日本放送教育協会）

日本文化史Ⅰ

圭室文雄

日本文化のなかでとりわけ宗教をとりあげたいと思う。日本人の文化意識の中で宗教がどのような役割を果たしていたかを、日本人の歴史の流れのなかで位置づけてみたい。また宗教が生活文化の基層をなした時代についてもとりあげ、宗教文化と生活とのかかわりを追求してみたい。

〔教科書〕 池田英俊・大浜徹他・圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史』Ⅱ（山川出版社）

印度仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されてゆく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑われない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにははじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかがわらせつつ、仏教文化の歴史のアプローチをこころみる。

〔参考書〕 辛島昇編『インド入門』（東大出版会）

奈良康明『仏教史Ⅰ—インド、東南アジア—』（山川出版）

西洋文化史Ⅰ

椽川 一 朗

西洋都市史。フランス・イギリス都市とドイツ都市との歴史的な性格を比較しつつ、中世から近代への変遷を概観する。

西洋文化史Ⅲ

阿 部 重 雄

今年は、昨年の続き。「ヨーロッパ中世社会とその文化」というテーマで講述する。内容の概略は次の通り。

1. 民族大移動とローマ帝国の解体
2. 『ビザンツ帝国』の発展
3. サラセン文化の影響
4. Feudalism とは何か。その構造と特色
5. 中世ヨーロッパの生活と文化
6. 中世都市の発達

仏教美術

林 良 一

仏教美術の図像学ならびに古代インド美術の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

〔教科書〕 林 良一『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200

現代美術

宮 崎 克 己

19・20世紀の西洋絵画を、具体的な作品を多く採り上げながら考える。現代美術に内在する空間、色彩、意味内容の問題を中心に据え、その他、現代美術を取巻く環境についても述べる。講義以外にも、美術館や展覧会を自主的に見に行く事が必要になるであろう。

禅 美 術

竹 内 尚 次

禅美術の本質について考えてみる。禅美術は禅林（禅宗教団）から自然に発生した中国の宋および元の時代に独自の展開を見せ、また我国では鎌倉時代末期から室町時代を通して開花した。禅そのものとは明確に区別することによって、禅の表白が禅美術であるとする従来の思考の誤りを、正さなくてはならない。まず、曹洞宗の高僧風外慧薫風外本高禅師の画事から始めて、禅林絵画・禅林墨蹟の本質について検証し、東洋美術史のなかに於てのその位置を確かめることができれば幸である。なお、ここに採用する美術品は、国宝・重要文化財を中心とする。さて、これらの作品を、折にふれて目で直接見て取ることが、大切である。

〔教科書〕 『思想の群馬(風外慧薫)』（あさを社）¥800

〔参考書〕 『夢窓国師』玉村竹二著（平楽寺書店）
¥2,200

美術史概説

林 良 一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

西域美術史

林 良 一

アフガニスタンより中央アジアにいたる地域に展開した、いわゆる西域美術について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

〔教科書〕 林 良一『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200

考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島武次

『考古学セミナー』の講読を通じて外国考古学について講義を行なう。

〔教科書〕 江上波夫監修『考古学セミナー』山川出版社、1976年（学生版、¥2,800）

考古学特講Ⅱ

飯島武次

UNESCO, “Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China” の講読を行なう。

〔教科書〕 UNESCO, “Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China”, 東洋文庫附属ユネスコ東アジア文化研究センター、1984年、¥2,100

考古学特講Ⅳ

高浜秀

北アジア考古学。特にシベリアから中国の北方を中心として北方ユーラシア・ステップ（草原）地帯の青銅器～初期鉄器時代文化を概観する。この時期には、スキタイ系遊牧騎馬民族文化が各地に興り、中国の北では匈奴などの活躍が知られる。匈奴がその主要な担い手であったと考えられるオールドス青銅器文化と、匈奴考古学に重点を置く予定である。

日本民俗学

山折哲雄

日本人の生死観を、とくに柳田国男・折口信夫の説にもとづいて考察し、それを西欧やアジアの諸民族のそれと比較する。

〔教科書〕 山折哲雄著『神と仏』（講談社新書）

仏教民俗学

和田謙寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとしては是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』（仏教民俗研究会）¥2,900円

宗教人類学

佐々木宏幹

日本・東アジア・東南アジア各地の諸社会に関する宗教人類学的な研究成果を取りあげ、検討する。宗教的観念と社会組織との関係や宗教儀礼の構造、社会・文化的意味についても考察する。テキストはその都度紹介する。

考古発掘実習

飯島武次

野外における考古発掘実習を行なう。20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

社会福祉概論

岡田真

日常生活のなかでも「慈善」、「慈善事業」、「社会事業」、「社会福祉事業」、「社会福祉」、「福祉」、さらに、「ソーシャル・ワーク」、「社会保障」などのことばを安易に混乱し使用している場合が多い。

社会福祉のしくみ、分野などについて論及し、社会福祉の諸制度の現状と課題について、一応の体系的理解ができるように指導する。この点は、福祉学専攻一年生の同一学科目と変らないが、本時は、高学年の、しかし専攻生ほどには数多く福祉学学科目を履修できない人たち

のための時間である。そこで、以上に加えて、下記のことにつとめたい。

- ① 本講座の各学科目相互の関連の明確化
- ② あなたの主攻攻の、専門福祉職務への役立て方
- ③ 「社会福祉方法総論」として専攻生には必修になっている内容のアウトライン

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）
岡田 真『コミュニティ・ワーク論』（大明堂）
欠席したらその週のうちにノートを補っておくこと。教科書の章を追っての教科書解説的な授業は行なわない。

障害福祉論

原 田 信 一

主として、わが国における心身障害児者の福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、原点を探るとともに、さらに欧米先進諸国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築を素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論』〔第二版〕（有斐閣）

〔参考書〕 林邦雄他『心身障害児（者）福祉』（田研出版）

社会福祉実習Ⅰ

岡 田 真

昭和60年度以降は、福祉専攻生以外には「配属施設」配属がない。各自で実習先を開拓しなければならなくなった理由の一つは、各自が実習先に責任を自分で負ってもらいたいことにある。しかも、自営経営の施設で実習する等は、従来通り、認められない。

教務部窓口を開拓の資料があるし、担当教員等も積極的に協力する。

オリエンテーション期間

1. 「明日の福祉」（NHK）の視聴方法の指導
 2. 自分の実習先につき、役割、機構などの下調べ
- フィールド期間：電話相談を遠慮なく。402研究室は東京418-9292, 助手室は9301,
フィールド終了後：実習ノートを基に助言、共同討議
注意：第3学年までの成績証明書（コピー可）を提出。

実習は、あなたの固有の専門を、福祉学との関連において検証できる場である。USA等の福祉学諸大学院は実習を特に重視している。プロ意識をもって履修してほしい。

- 〔参考書〕 1) 橋本泰子他編『社会福祉実習』（相川書房）
2) 『国民の福祉の動向』（昭和58年版、厚生統計協会）
3) 仲村優一・岡村重夫・阿部志郎他編『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会出版部）
4) 『社会福祉六法』（第一法規）
5) なお、「社会福祉実習」に関する資料コーナーがあるので活用してほしい。

社会福祉法制

小 林 弘 人

本講義は、憲法25条を具体化する社会保障・社会福祉に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。前期の前半は『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会行政法」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書『社会福祉の法を考える』に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕 小林弘人編著仮称『社会福祉の法を考える』（川島書店 60年3月末刊行予定）

〔参考書〕 小川政亮『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

公的扶助論

小 沼 正

公的扶助は、社会保障とくに所得保障において、社会保険と並ぶ二つの主要な部門の一つであり、貧困救済の最後の安全網 Safety net といわれる。わが国では生活保護制度によって代表される。

生活保護について、欧米諸国を念頭において、歴史的生成過程とそのもつ問題点——貧困と最低生活保障、最低生活水準とその算定方法、保護率、受給者の権利意識その他——および将来の方向などを取上げる。

これら諸問題は、ひろく社会保障そのものをも規定する基本的条件である。

〔教科書〕 小沼 正著『貧困—その測定と生活保護—』〔第二版〕（東京大学出版会）

〔参考書〕 籠山 京著『公的扶助論』（光生館）
仲村優一著『生活保護への提言』（全社協選書）

児童福祉論

原田 信 一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいいきれない。つまり、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく現出し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業（児童福祉法）などの関連にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』（学文社）

〔参考書〕 高橋重宏編『児童福祉を考える』（川島書店）

老人福祉論

奥 山 正 司

老後、老人問題は、社会の変化を背景にして、その発生するプロセスと性格によって、大きく以下の三つにわかれる。即ち、老化に伴う経済的ニード、身体的ニード、精神的ニードとそのそれぞれに対応する家族的扶養が十分にえられないところからくる問題の三つである。また、それらの問題に対して、老人福祉対策は、大別して、施設福祉対策と在宅福祉対策が、不十分ではあるが準備されている。

したがって、講義の内容は、老人問題の発生過程を明らかにし、そのうえで、老人福祉対策の現状と今後のあり方を考えることにする。

〔参考書〕 随時紹介していく

社会保障概論

小 沼 正

先ずわが国制度を把握するため、その主要な所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当など）、医療保障その他について概観し、それぞれの問題点を取上げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点をおいて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政、国際比較などについて、論点を進める。

〔教科書〕 小沼正・地主重美・保坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕 社会保障研究所編『社会保障の基本問題』（東京大学出版会）

社会保障研究所編『経済社会の変動と社会保障』（東京大学出版会）

地域福祉論

岡 田 真

CO（コミュニティ・オーガニゼーション）に時間配分の重点を置く。COはケースワークやグループワークと並んで福祉三大技術の一に位置するものであるから、「社会福祉方法総論」と極力同時に履修すること。

COの実体は、「地域の根廻し」の技術である。ただし、その適用はコミュニティ・ケアの展開、福祉計画充実などのためにであらねばならない。

他大学には「地域福祉論」で、福祉現実の地域的分析を行なう所もあるが、本学ではそれを都市社会学の一部に含める。そして、福祉現実の科学的認識なくしては、ソーシャル・ワークはカラ廻りをしてしまう。従って、同じ担当者の都市社会学を、ともに知ってくれることが望ましい。（もちろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが）。

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』（大明堂）

〔参考書〕 岡田 真『都市化日本の学歴社会』（大明堂）

他に最新の文献や入手困難な文献（コピーによる）

ケースワーク論

高 橋 重 宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の1つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、トリートメント過

程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かを体系的に理解できるようにつとめたい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

- 〔教科書〕 1) 久保紘章・高橋重宏編著『ケースワークを考える』（川島書店）
2) 仲村優一編『ケースワーク教室』（有斐閣）
3) 日本社会事業学校連盟編『ケースワーク実践の基礎—事例によるケースワーク研究—』（全国社会福祉協議会出版部）

グループワーク論

(前期)松本栄二・(後期)春見静子

学校・医療の場、社会福祉施設等における事例を用いながらグループワーク性質、方法を紹介する入門的なコース。

グループにかかわるソーシャルワークとグループワークの比較。社会教育的グループワークと臨床的グループワークの関係。機能主義と診断主義など折衷主義夫々のグループワーク等々についての紹介と共に出来ればロールプレーなどを教室でとり入れてみたい。

毎時間講義資料のコピーを渡す(実費徴収)。

社会福祉事業発達史

林 千代

いつの時代にも、生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は、資本主義の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心にし部分的に米国にもふれるよう社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等々が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

- 〔教科書〕 『社会福祉事業発達史』今岡他編(ミネルヴァ書房)

母子福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス・施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。それは、いわば婦人問題の集約であり、施策の最も具体的な対応がせまれる状況である。このような問題意識に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。1. 母子福祉への歩み、2. 母子家庭とは、3. 母子家庭の生活実態とその困難、4. 母子福祉施策の現状と問題点。

〔教科書〕 講義ノートによる

〔参考書〕 随時紹介

医療社会事業論

春見静子

1. 医療制度の中での医療社会事業の位置づけを保健所、病院、施設それぞれについて考える。
 2. 疾病がもたらす心理・社会的負担について考察する
 3. 援助を行うための社会資源にはどのようなものがあるか。関係法規とその適応を検討する
 4. 医療社会事業の方法について、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの実際を学ぶ
- 〔教科書〕 野村茂 他『医療社会事業の実際』(光生館)

社会福祉方法総論

高橋重宏

社会福祉実践の専門技術の基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャル・ワークの基礎知識及び関連理論・歴史的展開過程、ソーシャル・ワーカーの専門性、現代社会におけるその独自の社会的機能等を明確化させつつ、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に展開したい。

さらに、事例を用いながら、ソーシャル・ワーカーになるための基礎理解を深め、ソーシャル・ワーカーとしての専門職業的倫理観や基本的姿勢についても追求したい。

- 〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）

〔参考書〕 必要に応じ指示する。

社会福祉管理運営論

重田 信一

本講では、わが国における社会福祉行政ならびに社会福祉施設運営の実態を検討し、それをとおして、社会福祉運営法の相対的独自性を明らかにするとともに、そのあるべき姿を追求し、今後の社会福祉運営法のあり方を明らかにしたい。これを客観的に、諸外国との比較において、あるいは一般行政、私企業との比較において、検討したい。

なお、第2年次生あるいは他学科学生の聴講を予定して、社会福祉実践事例を紹介しながら、講義内容に具体性を添えるよう配慮する。

リハビリテーション論

原田 信一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれる。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも困難な問題を抱えていることがいちじるしく遅滞をもたらす原因につながっているとされる。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる

〔参考書〕 随時指示する。

社会教育概論

磯野 昌蔵

社会教育とは何かを次の諸点から検討する。

- 社会教育制度と法
- 学校教育と社会教育
- 社会教育関係団体

社会教育方法論

村山 輝吉

本講に関する既刊のテキスト類を数種目を通して見たが、そのとりあげている領域は広狭まちまちであり、また、叙述の視点やアプローチの角度も千差万別であっ

て、学問領域としてまだ一定の合意をみているとはいえないように思う。私としては、本年が開講一年目に当たるので、まずその辺のところから手をそめていかねばなるまいと考えている。いずれにしろ、単なる小手先の方法・技術にとどまるところなく、学習主体、学習課題、学習方法の相関関係を、過去及び現在の具体的なすぐれた社会教育実践の事例の分析を通して明らかにしたいと望んでいる。

社会教育行政財政

酒匂 一雄

社会教育行政は、施設の設置・運営、集会の開催、資料の作製その他の方法で、「すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努める」ことを課題としている。

この視点から、Ⅰ. 社会教育の本質と社会教育行政、Ⅱ. 戦前の社会教育行政の歴史、Ⅲ. 戦後社会教育の理念と制度——法制・施設・職員など——Ⅳ. 経済政策と社会教育政策、Ⅴ. 住民主体の社会教育行政、Ⅵ. 生涯教育と行政、Ⅶ. 社会教育行政の動向と課題、などを講義する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。

〔参考書〕 ①碓井正久編『新社会教育』（学文社）

②小林文人他『社会教育ハンドブック』

〔改訂版〕（エイデル研究所）

③『社会教育行政必掲』（昭和60年版）（第一法規）

教育社会学

熊谷 一乗

教育は人間を意図に育成することによって社会の過去、現在、未来を結びつける役割をはたしており、私たちの社会生活に重要な意味をもっている。しかも、教育がどのように行われるかは経済、政治など社会の動向に強く影響されている。さらに教育は人と人との触れ合いを基本とする社会的な過程として成り立っている。講義では、教育と社会との関係、社会の観点からみた教育の構造、機能、過程を明らかにするため、つぎのようなテーマを行う。

(1)人間の発達と社会 (2)教育と集団 (3)教育の社会的構造 (4)地域社会と教育 (5)現代社会と教育 (6)学校の社会学

〔教科書〕 その都度、プリントをわたす。

〔参考書〕 清水義弘『教育社会学』（東大出版会）

社会心理学

坪井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。社会心理学には、社会学のアプローチと心理学のアプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持ち、ミクロな心理的過程を重視する心理学的アプローチにも留意しつつ、躍動する社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、マクロな社会過程を重視する社会学のアプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的とする。

〔参考書〕 講義の中で指示する

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とはなにか。
2. 社会教育施設にかかわる人びと。
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向の課題

児童教化

富田博之

「児童教化」の現代的形態としての〈子ども文化（児童文化）〉の成立過程（歴史）と現状を探り、併せて〈子ども文化〉に関わる仕事をする人のための実習を行なう。

〈子ども文化〉の歴史では、主として子どものためのコミュニケーション・メディアの発達史を扱い、その現状では、主として子どものためのマス・コミの現状について学習する。

実習は、〈子ども文化〉に関わる仕事をする人にとって必要な、身体とことばによる表現とコミュニケーションの方法の初歩を学習する。

〔参考書〕 林義雄著『こえとことばの科学』鳳鳴堂書店刊

青少年問題研究

和田謙寿

「校内暴力や家庭内暴力、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をつめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕 和田謙寿著『少年補導の研究』全防連
¥1,200円

青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人たちには是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと思掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

社会教育演習

上岡安彦

秋期に埼玉県川口市内の公民館、図書館、児童文化センター、幼児館、青少年館、婦人会館等で一週間の社会教育実習を行ないます。

実習前は、社会教育実践記録として『成人教育への挑戦』を読み実習後はマクロの視点から『生涯教育』を読みます。

〔教科書〕 永田良行『成人教育への挑戦』（全日本社会教育連合会）¥750
エットーレ・ジュルピ、前平泰志訳『生涯教育』（東京創元社）¥1,500

教育法規研究

神田 修

教育法規をめぐる基本問題について学習する。

- 〔参考書〕 永井・堀尾『教育法を学ぶ』（有斐閣）
¥1,500
兼子・神田『教育法規事典』（北樹出版）
¥2,000

成人指導及青少年指導

酒匂 一雄

子どもの発達と学校外教育を中心に講義する。

- I. 子どもの発達と家庭・地域。①遊びと性格・学力
②日常生活と学力の関連
- II. 教育的環境の変容と「地域の教育力」 ①青少年の生活構成の変容, ②中学生の発達課題と社会教育活動, ③問題行動の克服と地域, ④地域の教育・文化活動と「地域の教育力」
- III. 「学校外教育」とその展開。①「学校外教育」とは, ②児童館, ③学童保育, ④公民館, ⑤学校と学校外教育, ⑥国の青少年政策
- IV. 青年・成人の学習と指導。①グループワーク, ②サークル活動, ③学級・論座など。
- 〔教科書〕 酒匂一雄他『子どもの発達と日常生活—学力と人格を育てる—』（ぎょうせい）
その他必要によりプリントを用意する。

生活指導

秋山 さと子

現代のおとなたちが、おとなの合理的な考えで、子どもたちへの対策を考えれば考えるほど、結果は逆になるような気がします。

想像力も育てずに自立させられてしまう子どもたちは、自分の不満や抑圧された本能的衝動の結果を、既成の学問の理論を借りて説明し、その解釈ですべてを割り切って、その中に逃げこみ、実際に自分の心に問い直すことにしていないのではないのでしょうか。

- 〔参考書〕 秋山さと子『ユング心理学』（講談社現代新書）

教育哲学

汐見 稔幸

昨年度に引き続き、教育とは何か、人間が発達するのはどういうことか、考えるということの本質は何か、など教育人間学的な問題をあれこれ考え合ってみたく思っている人のための授業である。ただし、授業形態はゼミ方式で、テキストを毎回読んできた上で討議し合うので、それだけの意欲のない人は、はじめから遠慮願いたい。テキストとしては、昨年度をひきついでルソーの『エミール』（第四篇以降）を選ぶか、パスカルの『パンセ』あたりを選ぶか、それとももう少し現代のものを選ぶか、参加者と相談して決めたい。教職を志す人に限らず、教育や人間の問題を一度はつっこんで考えてみたいと思う人は参加してみてほしい。

教育調査

大塚 雄作

調査・測定に関する基本的な解説を、教育場面を素材として行っていく。特に、テストの作成法、テスト得点の見方、標準的なテストの種類など、教育場面で最もよく利用されることになるであろう「テスト」に関する話題が中心となる。

- 〔参考書〕 『調査と測定』（新曜社）¥2,800・『探索的データ解析入門』（朝倉書店）¥3,800

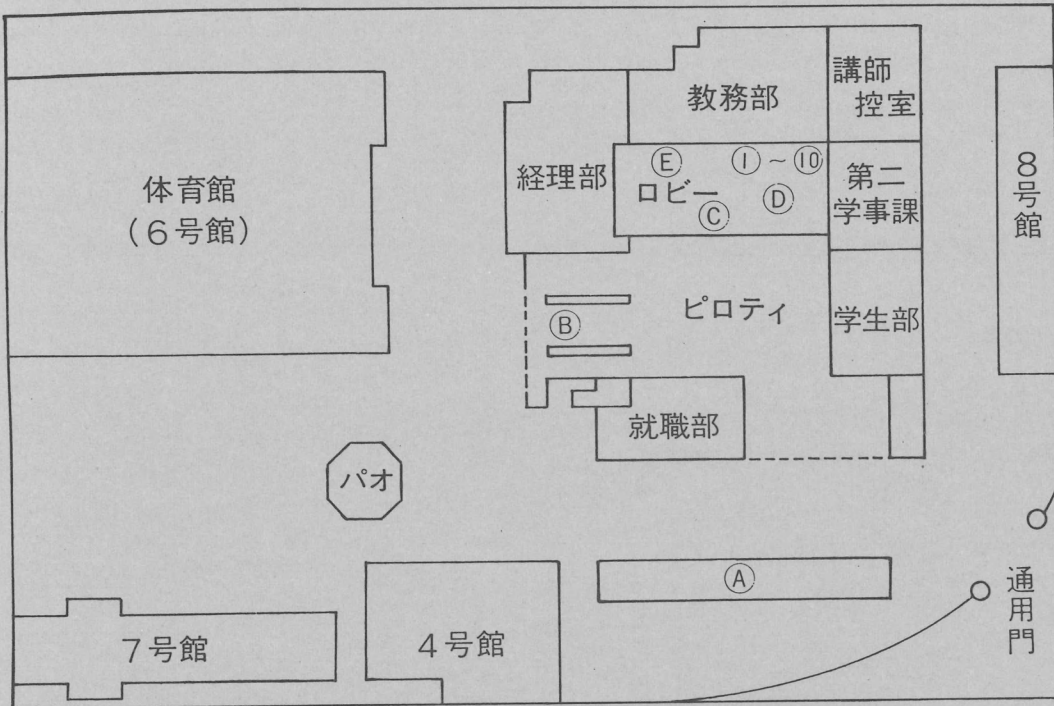
教育学特講

熊谷 一乗

講義は「現代教育の諸問題」というテーマで行われる。教育改革が国家的な課題となっていることが示すように、私たちの社会は、今、多くの深刻な教育問題をかかえている。校内暴力、学校恐怖症、差別、さらに「偏差値支配」といった病的現象が正常な教育をさまざまに、社会の将来に不安を投ずかけている。講義では、現代の教育をめぐる主要な問題をとりあげ、その病理を社会との関係で明らかにする。講義でとりあげる問題はつぎのとおりである。(1)子供の生活時間をめぐる問題 (2)親子関係の問題 (3)家庭の崩壊と子供 (4)少年非行の動向 (5)教育をめぐる暴力の問題 (6)教育をめぐる差別の問題 (7)教育における疎外の問題 (8)情報化社会のインパクト。

- 〔教科書〕 使わない
〔参考書〕 授業のさいに指示

教務部窓口及び掲示板案内



①教職課程

学校図書館司書教諭講座

②博物館学講座

社会福祉主事講座
社会教育主事講座

④証明書(教務関係)申込受付・発行

(健康診断書および
在学証明書は学生部)

諸証明書申込用紙は経理部前にあります。

⑤諸届願 (休学・退学・復学・死亡
改氏名・本籍地変更・保証人変更
保証人住所変更・聴講)

⑥大学院関係・留学生関係

学部演習 (仏教学部・経済学部)
法学部・経営学部)

卒業論文 (仏教学部・文学部)

⑦時間割変更・休講・外国語指定届 卒業証書・転部科

⑨履修・試験・成績・学業相談

④第1掲示板(表面) ……公示・告示, 学生部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項, その他

第2掲示板(裏面) —臨時掲示板—

……………教務部関係連絡事項(12月~3月), 就職部関係連絡事項(9月~11月)

⑤第3掲示板—臨時掲示板—

……………教務部関係連絡事項(12月~3月), 就職部関係連絡事項(9月~11月)

⑥休講掲示板

⑦授業時間表カウンター

⑧大学院・留学生関係掲示板

